観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月２３日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）安中市観光機構	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	群馬県安中市	
所在地	群馬県安中市	
設立時期	平成２８年１０月１２日	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの１年間	
職員数	９人【常勤５人（正職員 5 人）、非常勤４人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 武井　宏 （出身組織名） （一社）安中市観光機構理事長 安中市商工会会長 （株）ボルテックスセイグン代表取締役社長	安中市商工会長として、地域内外の様々なパイプ役となっており、在任期間中、様々な取組で成果を挙げている。また、地元安中市に本社をもつ物流会社の代表取締役で、群馬県貨物運送事業協同組合連合会長、（一社）群馬県トラック協会会長、群馬県経済同友会副代表幹事、群馬県中小企業団体中央会理事など務めている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 上原　将太　（専従） （出身組織名） （一社）安中市観光機構事業部	体験プログラム「廃線ウォーク」のガイドを年間通じて担っている。事業企画・情報収集・情報発信等に高い知見と能力を持つ。観光関係事業者等との対外交渉能力も高く、有効な人脈づくりに長けている。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 萩原　弘　（専従） （出身組織名） 安中市観光課長	安中市役所にて 15 年間観光課に在籍し、観光業務に携わる。うち観光課長歴が合計 5 年間という広い知識を持つと同時に、高い財務分析能力に加え、経済団体等に幅広い人脈を持つ。

様式１

各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	（氏名） 武井　宏 （出身組織名） （一社）安中市観光機構理事長 安中市商工会会長 （株）ボルテックスセイグン代表取締役社長	安中市商工会長として、地域内外の様々なパイプ役となっており、在任期間中、様々な取組で成果を挙げている。また、地元安中市に本社をもつ物流会社の代表取締役で、群馬県貨物運送事業協同組合連合会長、（一社）群馬県トラック協会会長、群馬県経済同友会副代表幹事、群馬県中小企業団体中央会理事など務めている。
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 上原　将太　（専従） （出身組織名） （一社）安中市観光機構事業部	体験プログラム「廃線ウォーク」のガイドを年間通じて担っている。事業企画・情報収集・情報発信等に高い知見と能力を持つ。観光関係事業者等との対外交渉能力も高く、有効な人脈づくりに長けている。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	安中市みりょく創出部観光課（マーケティング、観光振興） 安中市みりょく創出部文化財課（ガイド養成・鉄道遺産保全） 安中市みりょく創出部スポーツ課（スポーツツーリズム推進） 安中市まちづくり部都市整備課、政策・デジタル推進課（社会資本整備） 安中市まちづくり部都市計画課（地域公共交通） 群馬県産業経済部戦略セールス局観光リトリート推進課（広域連携） 群馬県高崎安中振興局高崎行政県税事務所（広域連携） 富岡市世界遺産観光部観光交流課（広域連携） 軽井沢町観光経済課（広域連携）	
連携する事業者名及び役割	・株式会社ボルテックスアーク（着地型旅行商品） ・安中市商工会、安中市松井田商工会、安中市菓子工業組合、安中市各飲食店組合、秋間梅林観光協会、安中市物産振興会、碓氷製糸株式会社、新島学園、群馬県立松井田高等学校、群馬県立安中総合学園高等学校（ふるさと名物の開発） ・群馬銀行、群馬県信用組合、東和銀行、しののめ信用金庫（金融相談） ・東日本旅客鉄道株式会社（旅行商品開発・地域共創の実現） ・（一社）群馬県タクシー協会碓氷安中地区（アクセス改善） ・磯部温泉組合、磯部観光温泉旅館協同組合、磯部製菓協同組合、磯部合同製菓組合（温泉地の回遊促進） ・安中まちづくりの会、安中市観光ボランティアガイドの会、碓氷線文化財インストラクター、碓氷関所保存会（まちなか回遊促進） ・（一財）碓氷峠交流記念財団（事業地域連携） ・一般社団法人富岡市観光協会、一般社団法人軽井沢町観光協会（広域連携）	
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】 ① 様々な分野の代表者により構成する観光地域づくり法人(DMO)理事会設置。 観光地域づくり法人(DMO)理事会には、安中市観光機構理事長、安中市、安中市商工会長、安中市松井田商工会長、碓氷峠交流記念財団理事長、JA 碓氷安中代表理事組合長、磯部温泉旅館組合理事長、安中市物産振興会長、安中市飲食店組合長、安中市松井田飲食店組合長、安中市磯部飲食店組合	

	長、松井田商店連盟会長、碓氷峠歴史文化遺産研究会理事長、秋間梅林観光協会長、碓氷製糸株式会社常務理事、群馬県信用組合理事長、群馬銀行安中支店長など、地域の関係組織の代表者が参画し、地域一体となった観光地域づくりに向けて事業に取り組む体制としている。 ② 観光地域づくり法人(DMO)を中心とした観光地域づくりの推進について、DMO の組織内に設ける「商品開発部会」などへ、行政や民間企業、地元ボランティア団体、NPO 法人など、地域の多様な組織からメンバーを選出したワーキンググループを設置し、滞在交流型プログラム（体験プログラム）の企画立案などを通じて、継続的な観光地域づくりや連携についての合意形成合成を地域が自主的に課題化する構造とする。 ③ 観光地域づくり法人(DMO)を中心とした観光地域づくりについての連絡調整を行うため、商品企画、商品造成で連携する富岡市、軽井沢町をはじめ、 行政、民間企業、ボランティアガイド団体、NPO 法人など、市民活動団体も 含めた地域の多様な関係者からなる体制を構築し、定期的な情報交換などを行う
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	安中市内に在住する地域住民参加型のワークショップを定期的（2 年に 1 度程度）に開催し、体験型プログラムの造成、商品開発、情報発信、観光誘客の具体的な施策等について意見を出し合っている。 令和 3 年度は、廃線ウォークなどの体験プログラム、観光資源、観光スポット、地域の宝、人等を各地域の四季の移りゆく風景を動画と画像で撮影しながら、撮影の参加者は地域住民の方々に参加していただき、撮影した動画や画像は、ＳＮＳ等で配信し、シティープロモーションツールとして活用している。撮影についての住民参加では、地域ワークショップ（2 回開催)、インタビュー方式をとり、撮影する場所、内容に住民の意見、アイデア、考えを反映して企画し撮影をした。 令和 4 年度では、撮影した動画や画像は観光客誘客プロモーションだけではなく、安中市を住民の皆さんにより良く知っていただくために、多様な関係者と協力しながら、外側だけではなく内側にもプロモーションをかけていく「安中モデル」を構築した。撮影した動画は、市役所ロビー、日帰り温泉施設モニター、当観光機構 観光案内所モニターで放映している。 令和 5 年度では、廃線跡の保全と活用を促進するための「碓氷峠廃線ウォークサポーター制度」をスタートした。毎月第一土曜日に集まり、廃線跡の整備活動を行う。市内で暮らす人も、市外から訪れる人も、自らのアクションが地域に還元されることを喜んで参加してくれており、120 名を越えるサポーターがいる。 令和 6 年度は、地域住民や関係事業者等に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進を図るため、観光地域づくりに関する取り組み事例発表などを、内容とした観光シンポジウムを開催。市内 6 事業者が「地域における観光連携」をテーマに発表を行った。「持続可能な観光」をテーマに、かまいし DMC 河東英宜氏、キタ・マネジメント 井上陽祐氏、信州千曲観光局 小沼浩栄氏、による好事例の発表とパネルディスカッションを行った。 令和 7 年度は、市内事業者による観光地域づくりに関する取り組み事例発表の機会を増やし、暮らす人にとって「観光地域づくり」をより身近なものにする。

<table>
<tr><td></td><td>群馬県立安中総合学園高等学校 情報ビジネス系列にて「観光ビジネス」の授業がスタートし、DMO、学校、鉄道会社で連携し、実践的な学習を予定しており、高校生が成果発表の場として、小中学生に伝えることができるように調整中。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>商品・物産開発事業</td><td>〇地方創生推進交付金事業（平成 29 年度・30 年度・31 年度・令和元年度・令和 2 年度）
・地域の物産である梅・醤油を利用した商品開発を秋間梅林、菓子組合と連携して行った
・梅については商品開発した商品等を梅レシピの冊子を作成した。
・商品開発した商品等を掲載した物産カタログ「峠の贈り物」とブランディングして作成した。
・当機構 HP「あんとりっぷ」から販売できるよう EC サイトを構築した。
〇安中市観光機構自主事業
・鉄道の街、横川と汽笛を題材にした、T シャツ、ピンバッジ、バンダナ、キャップ、トートバック、ポーチなどを商品開発し、販売している
・新型コロナウイルス感染防止対策として、オリジナルマスクを製作した。
・オリジナルの包装紙を作成した。
・妙義山をテーマにオリジナル T シャツを 6 種類作成した
・国が進める「江戸街道プロジェクト」の一貫として、中山道安中 4 宿場（板鼻宿・安中宿・松井田宿・板鼻宿）の宿場印の作成
・信越本線廃線印の作成
〇あんなかロケ弁開発販売事業
（安中市観光機構・安中市商工会・安中総合学園高校・新島学園高校・松井田高校・弁当製造販売６事業者との連携事業）
・市内 3 校の生徒がレシピを考案し事業者が 6 種類のあんなかロケ弁を制作
〇あんなか梅スイーツ開発・販売事業
（安中市商工会・安中市観光機構・市内和洋菓子店など 14 社との連携事業）
・秋間梅林を中心としたあんなかの梅を使用した「あんなか梅スイーツ」の開発・販売
〇観光再始動事業（観光庁）（令和 5 年度）
・秋間梅林梅づくしセット開発・販売</td></tr>
<tr><td>体験プログラム作成事業</td><td>〇地方創生推進交付金事業（平成 29 年度・30 年度・31 年度・令和元年度・令和 2 年度）
・住民参加型ワークショップを開催し、そこでの意見・アイデア・ヒントを踏まえて、地域の関係者と連携協力して体</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

		験プログラムを作成した。現在までに 196 の体験プログラムを保有している。ワークショップ参加者からのアイデアから実現に至った体験プログラム「廃線ウォーク」は、はコロナウイルス禍においても、令和 3 年度の参加者が過去最高の 1400 人を超えるプログラムとなった。令和 7 年 7 月末現在、参加者が延べ 9900 人を超える体験プログラムになっている 〇地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携に向けた実証事業（観光庁）（令和 3 年度） ・既存の 10 の体験プラグラムをブラッシュアップさせ、新規の体験プログラムを 10 作成した。 〇サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業（観光庁）（令和 4 年度） ・体験プログラム　碓氷峠廃線ウォークをブラッシュアップ ・廃線保全・保線体験プログラム（JR 東日本高崎支社と連携） ・脱炭素型 EV レールカート乗車体験（JR 東日本高崎支社と連携） ・廃線保全コミュニティの形成 〇観光再始動事業（観光庁）（令和 5 年度） ・紅葉の碓氷峠　鉄道乗車回遊体験 ・EV レールカート乗車体験 ・碓氷峠トンネル活弁シアター体験 〇「MELODIC LIGHT WALK」（夜の碓氷峠廃線ウォーク）（令和 6 年度） 碓氷峠と廃線を活用した新しい観光コンテンツ（体験プログラムとして、令和 6 年 4 月より「MELODIC　LIGHT WALK」 を毎週末、土、日曜日に実施。夜の廃線の線路を歩きながら碓氷峠を走った専用電気機関車「EF63」や「ED42」をテーマとしたストーリー展開。廃線跡と沿線の森をプロジェクションマッピングとライトアップを演出し、コース内に設置された「メロディマーク」を探していくインタラクティブな体験プログラム。初年度はカップルを中心に 2700 人以上の参加となった。 〇碓氷峠の交通史を「どのように碓氷峠を超えたのか」をテーマに旧中山道（古代から江戸時代）、御巡幸路（明治 11 年）、信越本線旧線アプト式鉄道（明治・大正・昭和）、信越本線新線（昭和・平成）、北陸新幹線・上信越自動車道（平 成・令和）を歩きながらたどる「碓氷峠タイムトラベルウォーク」を観光コンテンツとして開発し、修学旅行（インバウンド修学旅行を含む）展開、販売。	

様式１

	モニターツアー事業	○地方創生推進交付金事業（平成 29 年度・30 年度・31 年度・令和元年度・令和 2 年度） ・主に安中市・富岡市・軽井沢町を巡るモニターツアーの実施　（個人（FIT））（国内エージェント）（インバウンドエージェント） ○地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携に向けた実証事業（観光庁）（令和 3 年度） ・安中市内の観光資源（秋間梅林、廃線ウォークなど）において、体験プログラムを体験しながら、磯部温泉に宿泊する観光ルートを造成し、台湾をターゲットに実施した。 ○サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業（観光庁）（令和 4 年度） ・台湾をターゲットに本事業で造成した観光コンテンツをモニターに体験してもらい、問題課題や改善点の意見をいただいた。（あんとりっぷカード体験・廃線ウォーク &EV レールカート体験・意見交換会・鉄道文化むら視察・磯部せんべいサクサクウォーク） ○地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業（観光庁）（令和 4 年度） ・本事業で造成した観光コンテンツをモニターに体験してもらい、モニターにアンケートを行いその結果をもとに効果測定を行った。【EL ぐんまよこかわ号・信越線沿線マルシェ（磯部マルシェ・横川マルシェ）・磯部せんべいサクサクウォーク・トロッコ列車・廃線ウォーク &EV レールカート体験・秋間梅林食べ歩き・砂塩風呂・温泉マークカレー】 ○令和 5 年度は、インバウンド向けとして、JR 創造旅行社（台湾）、Walk Japan に観光ルートを回っていただき、終了後意見交換を行い、意見や指摘をいただいた。

	体験プログラム冊子「あんとりっぷ」作成及びあんとりっぷボード、あんとりっぷカード作成事業	○地方創生推進交付金事業（平成 29 年度・30 年度・31 年度・令和元年度・令和 2 年度） ・ワークショップ等で作成された体験プログラムや既存のプログラムの磨き上げをしたものを掲載した体験プログラム冊子「あんとりっぷ」（年 4 回（春・夏・秋・冬）として制作した。また、この冊子を HP「あんとりっぷ」でも見られるシステムを構築した。 ○地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携に向けた実証事業（観光庁）（令和 3 年度） ・あんとりっぷボード 12 カ所に設置 ・あんとりっぷカード作成（体験プログラム 19 種・土産店 13 種・飲食店 12 種）（44 種類　各 1000 部） →　中国語版、英語版各 500 部作成 ○サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業（観光庁）（令和 4 年度） ・季節ごとに観光コンテンツを入れ替わり提供するあんとりっぷカードの提供筐体を JR３駅に設置した。紙ロスを減らしたカード型情報ツールは、QR コードを設置することで WEB 情報と連携、予約まで一貫して提供する仕組みを導入した。 ・新規体験・観光コンテンツを加え、多言語（日本語・英語・ 繁体語・簡体語にてカード情報を整備した。 ○観光再始動事業（観光庁）（令和 5 年度） ・磯部温泉リトリートカード作成
	体験プログラム予約サイト・廃線ウォークサイト作成及び保守管理事業	○地方創生推進交付金事業（平成 29 年度・30 年度・31 年度・令和元年度・令和 2 年度） ・体験プログラム予約サイト「あんとりっぷ」を作成 ・廃線ウォーク専用サイトを作成 ・上記 2 つのサイトの保守管理を実施 ○地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携に向けた実証事業（観光庁）（令和 3 年度） ・あんとりっぷカードの QR コードであんとりっぷ WEB へ遷移し、他のプログラムも同ページで閲覧できるように構築
	インバウンド事業	○安中市・富岡市・軽井沢町観光連携協議会事業 ・台湾プロモーション事業 台湾旅行博への視察を行い、今後のインバウンドプロモーション方法を検討した。また、台湾 AGT にも訪問し、今後のインバウンド受注に繋げるための具体的なプロモーションを行った。JNTO にも訪問し今後の観光連携強化を要望した。 ○地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携に向けた実証事業（観光庁）（令和 3 年度） ・安中市内の観光資源（秋間梅林、廃線ウォークなど）を体験プログラムを体験しながら、磯部温泉に宿泊する観光ルートを策定し、台湾をターゲットに実施した。 ・商品造成した観光ルートを台湾人の案内のもと中国語で案内する動画をプロモーション用に作成した。

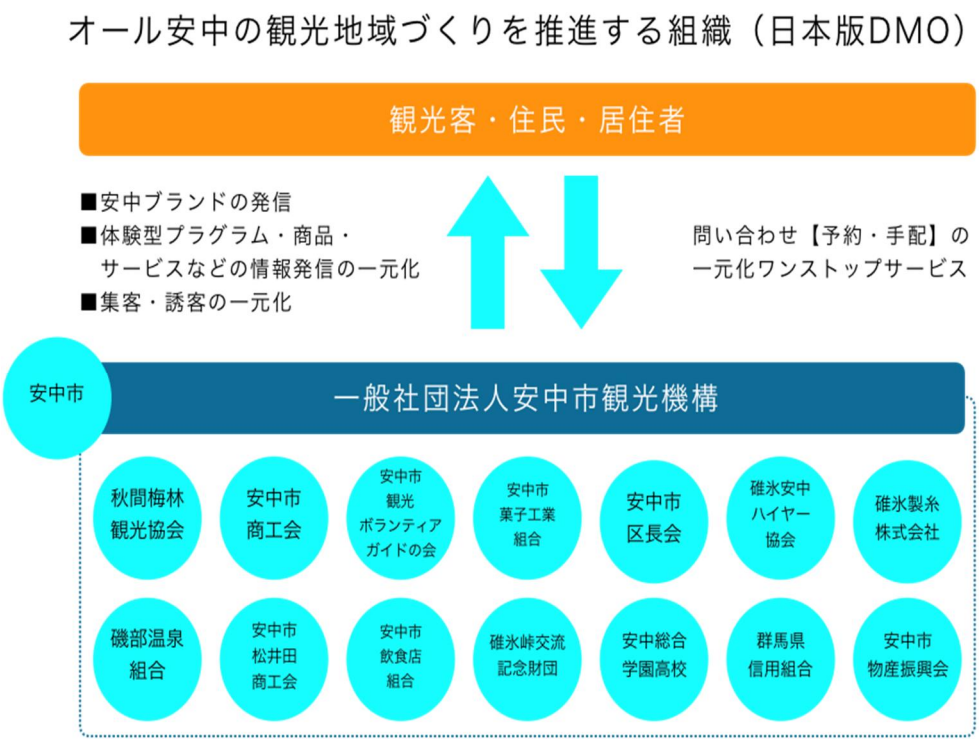
		・この動画をもとに台湾旅行社 16 社とオンライン商談会を実施 した。（オンライン FAM ツアー） ・あんとりっぷカード作成（体験プログラム 19 種・土産店 13 種・飲食店 12 種）（44 種類　各 1000 部） →　中国語版、英語版各 500 部作成 〇サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業（観光庁）（令和 4 年度） ・台湾の旅行社 8 社と個別に商談会を実施した。 ・台湾向けに定量調査を WEB アンケート方式で実施した。 （調査対象：WEB アンケート調査会社の登録モニター・台湾在住 18～59 歳　男女・過去 5 年以内に訪日旅行経験有） 有効回答数：455 サンプル 〇観光再始動事業（観光庁）（令和 5 年度） ・梅づくしギフトセット販売　（台湾） ・台湾向けに体験コンテンツを造成し販売 ①紅葉の中をトロッコ列車で行く碓氷峠トンネルシネマ鑑賞会 ②碓氷峠鉄道文化むらトロッコ乗車＆めがね橋見学＆活弁シアター鑑賞＆EV レールカート乗車 ③梅ギフトセット付き　鉄道廃線ウォーク ④梅ギフトセットと東日本一の秋間梅まつり ⑤ホテル磯部ガーデン　温泉リトリートプラン ・情報発信事業（WEB・SNS・雑誌掲載等）（台湾向け） ①観光コンテンツ商品販売ページの作成 ②メディア記事リリース
	効果測定事業	〇地方創生推進交付金事業（平成 29 年度・30 年度・31 年度・令和元年度・令和 2 年度） ・観光庁のアンケート様式に基づいて、旅館や観光地でアンケート調査を実施し、調査結果をまとめ KPI の指標とした。 ・それらを分析して、次年度への KPI 達成に向けた課題の抽出や課題解決策の報告書を作成した。 〇地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業（観光庁）（令和 4 年度） ・本事業で造成した観光コンテンツをモニターに体験してもらい、モニターにアンケートを行いその結果をもとに効果測定を行った。 〇サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業（観光庁）（令和 4 年度） ・台湾向けに定量調査を WEB アンケート方式で実施した。 定量調査分析結果報告書を作成 （調査対象：WEB アンケート調査会社の登録モニター・台湾在住 18～59 歳　男女・過去 5 年以内に訪日旅行経験有） 有効回答数：455 サンプル 〇観光再始動事業（観光庁）（令和 5 年度） 活弁シアター鑑賞参加者へアンケート調査を実施 （上順旅行社・悠々旅行社 59 名対象）（台湾旅行社）

	安中市・富岡市・軽井沢町２市１町観光連携協議会事業	一般社団法人安中市観光機構が所属する２市１町観光連携協議会では当機構も参加し、観光イベント事業や観光情報発信として以下の取組を実施してきた。 ① 共同宣伝事業 ２市１町の文化観光資源をそれぞれ出し合い、富岡製糸場や碓氷峠鉄道施設（めがね橋等）、旧三笠ホテルなどを前面に押し出した、広域観光パンフレット、ポスターを作成し、それらを活用した観光キャンペーンを通じ、関東・北陸地域等への積極的な誘客宣伝活動を行ってきた。 ② 観光情報の収集・交換・提供 観光情報の収集・交換に努め、広域的な旅行商品の造成を図るとともに、旅行会社・マスコミ等関係機関へ積極的に広域観光情報の提供を行ってきた。 また、２市１町の観光コースを造成し、そのコースをAGT向けに紹介するDVDの作成を行い、各AGT等に配付し、旅行商品造成を依頼し、誘客した。 ③ 各種イベントの相互参加 ２市１町のそれぞれの観光イベントに観光情報提供ブース出店などで相互参加し、連携を強化するとともに、それぞれの地域の魅力や協議会の活動を宣伝してきた。（安中市商工まつり、富岡市どんとまつり、軽井沢町ウインターフェスティバルなど） ④ AGTモニターツアー実施 地方創生推進交付金を活用し、観光AGTを本エリアに招待し、２市１町の歴史文化遺産を中心に、各地域のガイドによるまちあるきコースを設定し、案内した。さらにツアーの夜は、３首長が集まり、観光AGTや市民約150名を対象に、これからの広域連携と安中市の観光振興を考えるシンポジウムを行い、広域連携についての３エリアの共通の観光誘客の方向性について確認した。 ⑤ 台湾プロモーション実施 台湾旅行博への視察を行い今後のインバウンドプロモー	

		ション方法を検討した。また、台湾 AGT にも訪問し、今後 のインバウンド受注に繋げるための具体的なプロモーションを行った。合わせて、JNTO にも訪問し今後の観光連携強化を要望した。 ⑥　軽井沢観光圏（富岡市・安中市・軽井沢町観光連携協議会）の深化による観光消費拡大 令和 6 年度から富岡市・安中市・軽井沢町観光連携協議会の事務局を安中市が担い、今年度は観光モデルコースの見直しを行い、来年度に予定している台北旅行博への出展と海外向けのセールスを行うための準備を行う。本事業の実績を活かし、これまで以上に、長野県軽井沢町と群馬県富岡市と連携しつつ、県境を跨いだエリアマネジメントを展開。明治遺産を活かした地域経済活性化を目指して「ここ だけ・いまだけ・あなただけ」をキーワードに、軽井沢観光圏として広域的に観光誘客を図っていきたい。 ⑦富岡市の富岡製糸場、安中市の碓氷製糸、磯部温泉、碓氷峠鉄道文化むら、と「絹」をテーマとした絹産業ツアーを連携、協力して新しい観光コンテンツとして開発、販売するための準備を進めている。また、廃線ウォークのスタートが軽井沢のコースがあり、軽井沢町教育委員会と連携した地域学習のツアーが定着してきた。夜の廃線跡を歩く、「MELODIC LIGHT WALK」は体験チケットを軽井沢プリンスホテルの宿泊者向けに販売整備が完了。他の宿泊施設等との連携も推進していきたい。

【定量的な評価】

観光コンテンツ（体験プログラム）の開発を定期的に行い販売している。
住民参加ワークショップの開催、各種商品開発での住民参加、関係事業者との連携協力等で観光による地域づくりの体制が構築できている。
令和 6 年度は「持続可能な観光」をテーマに、地域住民や関係事業者等に対する観光地域づくりの更なる意識啓発・参画促進を図るための事例発表などを内容とした観光シンポジウムを開催した。令和 7 年度は「持続可能な観光」の住民満足度を図る前に、持続可能な観光についての WEB 記事を制作し、理解度を高めたい。

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** （一社）安中市観光機構が母体となり、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、農業者、金融業者など多様な関係者が参画するなど官・民・金・学が密接に連携した運営を実施。 **【実施体制図】** 

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

安中市は、2006 年 3 月 18 日、旧安中市と旧松井田町が合併し誕生した市である。人口は 53,446 人（令和 6 年 3 月 31 日現在）である。群馬県西部に位置し、東は高崎、西は軽井沢、南は富岡に接している。

【区域設定の考え方】

群馬県安中市では、平成 26 年 6 月の「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産登録や北陸新幹線開通をチャンスとして、県境を跨いだ観光連携協議会を群馬県富岡市及び長野県軽井沢町とともに、平成 26 年 4 月に発足させた。この流れを踏まえ、当機構の理事長は、安中市の観光事業者とし

て、地元産業の活性化を観光振興により実現するという考えの下、本事業に取り組む。連携する各自治体の状況は以下の通りである。

■安中市

安中市は群馬県西部に位置し、東は高崎市、西は軽井沢町と接する。人口は 53,351 人（令和 7 年 6 月 30 日現在）の市である。中山道の宿場（4 宿場）や碓氷関所が置かれる交通の要衝であり、現在でも北陸新幹線の安中榛名駅に加えて、上信越自動車道の松井田妙義ＩＣ及び碓氷軽井沢ＩＣがあるなど全国的に見ても立地条件に恵まれた地域である。この立地の良さを活かし、市内には信越化学工業や東邦亜鉛といった企業があり、産業別就業者数（令和 2 年度国勢調査）をみても第 1 次が 1,077 人（4.1%）、第２次が 8,978 人（33.6%）、第３次 15,845 人（59.33%）と２次以降の比率が高い。

【年間 140 万人が楽しむ温泉地域】

安中市を代表する観光資源といえば、磯部温泉である。妙義山を借景とする清流“碓氷川”沿いの風光明媚な場所に拓けた磯部温泉は、温泉記号の発祥地としても知られており、市内には数カ所の日帰り温泉施設があることから、年間 140 万人もの観光客で賑わっている。

令和 2 年度以降は新型コロナウイルス禍の影響で観光客は減少している。

令和 6 年度は約 100 万人まで回復してきている。

【明治の歴史遺産群】

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」に代表される煉瓦づくりの歴史遺産が安中市内にも数多く存在する。中でも安中市といえば明治期の芸術と技術が融合した美しい煉瓦のアーチ橋である碓氷第三橋梁（めがね橋）、「アプトの道」がある。

■軽井沢町

軽井沢町は長野県東部に位置し、東は群馬県安中市、西は御代田町と接する。人口は 21,752 人（令和 7 年 7 月 1 日現在）の町である。観光客が年間約 830 万人訪れている国内有数の国際リゾート都市であり、先進国首脳会議を誘致するための活動を町を挙げて取り組んでおり、地域の国際化を進めている地域である。上信越道自動車道の碓氷軽井沢ＩＣが最寄りの IC があり、鉄道は、しなの鉄道と、北陸新幹線が通っている。産業別就業者数（令和 2 年度国勢調査）は第 1 次が 296 人（3.5%）、第２次が 1,186 人（14.0%）、第３次 6,859 人（81.3%）と３次の比率が高い。

また、隣接する群馬県安中市と世界遺産・国宝「富岡製糸場」をもつ富岡市と観光連携を進めている。その中で、文化歴史資源である三笠ホテルなどを中心に、町内の歴史遺産に着眼した広域観光誘客を図っている。

■富岡市

富岡市は群馬県西部に位置し、北東は高崎市、西は下仁田町と接する。人口は 44,737 人（令和 7 年 7 月 1 日現在）の市である。平成 18 年に富岡市と妙義町が合併した。上信越道自動車道の富岡ＩＣがあり、鉄道は、私鉄の上信電鉄の 7 駅が通っており、群馬県西部地域の中心都市として富岡

製糸場の世界遺産登録を契機に市街地活性化を進めている。また、隣接する甘楽町と広域連携を進めている。代表的な企業はＩＨＩエアロスペースや、日本光電などの事業所がある。産業別就業者数（令和 2 年度国勢調査）は第 1 次が 1,531 人（6.5%）、第２次が 9,332 人（39.6%）、第３次 12,514 人（53.1%）と２次以降の比率が高い。平成 26 年 6 月 25 日に世界遺産登録された富岡製糸場は今年度で 10 周年を迎える。入場者数は、平成 26 年度の 1,337,720 人のピークから比べると減少傾向にある。新型コロナウイルス禍で令和元年度 442,840 人・令和 2 年度 177,419 人・令和 3 年度 223,000 人・令和 4 年度 314, 583 人と入館者数は減少していたが、令和 5 年度は 367,466 人となっており、入館者数は増加傾向にある。

【観光客の実態等】

群馬県の西側及び長野県の東端に位置する富岡市・安中市・軽井沢町は、明治期に建築された重要文化財の近代化遺産で結ばれており、またそれぞれ２市１町には、地域の風土・歴史、文化及び産業に触れることのできる地域として高く評価され、数多くの名所・旧跡・レジャー施設等が整備されており、首都圏を中心に、四季を通じて多くの観光客が訪れている。

上記に述べたように、富岡製糸場の世界遺産・国宝登録により、前年 30 万人しか訪れなかった富岡製糸場の観光客が、登録後は年間 100 万人を突破する伸びを見せており、その影響で、磯部温泉も、富岡製糸場に最寄りの温泉地として、前年比 130%の宿泊者数にのびた。軽井沢町には、約 837 万人の観光客が訪れており、年々増加傾向にあった。しかしながら、令和元年度終盤から令和 4 年度は新型コロナウイルス禍の影響でこの地域への観光客数は激減した。コロナ禍前の水準に戻るように、更なる連携協力をして観光誘客を図っていきたい。令和 5 年度の安中市の観光客入込客数は、約 100 万人、延べ宿泊客数は、約 8 万人、観光消費額は 5,861 円となっており、令和 4 年度より若干増加した。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

■安中市の歴史を代表する観光資源

アプトの道（遊歩道）	明治 26 年から昭和 38 年まで運行されていた碓氷線（横川～軽井沢間）アプト式鉄道廃線路を遊歩道とした鉄道遺産。煉瓦造りの 10 トンネル、7 橋梁、丸山変電所はすべて国重要文化財。	旧碓氷郡役所	市指定重要文化財 明治 11 年 12 月開庁、明治 43 年に火災で焼失、明治 44 年 9 月に竣工された。大正 15 年 7 月 1 日廃止となり、碓氷郡農業会、碓氷地方事務所、安中農政事務所などに引き継がれました。 現在の建物は、平成 10 年 2 月より公開されています。

様式１

	（横川駅～めがね橋～熊ノ平駅まで約 6.1㎞） トンネル内照明は午後 6 時消灯		開館時間：午前 9 時から午後 5 時。（冬季午後 4 時 30 分） 月曜休館
安中教会	国登録有形文化財（教会堂・温古亭・義円亭・宣教師館） （平成 16 年 11 月登録）　宣教師館は、同時期に多数作られた宣教師の中では県内で現存する唯一のものである。 日本人の手で創立された日本初めての教会。 安中藩出身で同志社大学創始者の新島襄より湯浅治郎をはじめとする求道者 30 名が洗礼を受け、明治 11 年に創立。 群馬県では最初のキリスト教会であり、日本人の手により創立された最初のキリスト教会です。 教会内見学は、安中教会へ要相談。	旧丸山変電所	国重要文化財（平成 6 年） 明治 45 年に碓氷線電化のため、国鉄が全国で初めて建設した煉瓦造り建築の変電所。 建物 2 棟（蓄電池室・機械室）からなり、交流 6600V を直流 650V に変換した。
		熊野神社（碓氷峠）	碓氷峠頂上にある、長野県と群馬県の県境にある神社。日本三熊野の一社。 参道と本宮の中央が県境にあたる。本宮は、井邪那美命・日本武尊を祀る。 日本武尊が東征の帰路で碓氷峠に差し掛かった際、濃霧が生じて道に迷った。その時に一羽の八咫烏が道案内をし、無事に頂上に着いた。これを感謝して熊野の神を勧請したのが創建。第 12 代景行天皇とされる。
安中原市の杉並木	国指定天然記念物 （昭和 8 年） 樹齢 400 年以上と言われ、日光の杉並木と同年代のものとされています。 旧街道を行き来する旅人が強い日差しをしのげるようにと植樹された。 天保 15 年には 732 本を数えたと言われています。	五料の茶屋本陣（お西・お東）	群馬県指定史跡 江戸時代の五料村の名主屋敷で、中山道を参勤交代などで通行する大名や公家、幕府の役人などに休憩所として利用されていました。建物はお西、お東とと 2 棟あり、復元修理後一般公開されている。 開館時間：午前 9 時～午後 5 時（冬期 4 時 30 分）

様式１

	現在は十数本が当時の面影を伝えています。		月曜休館 大人 210 円　小人 100 円
板鼻本陣跡 和宮（静寛院宮）	中山道板鼻宿の本陣跡は、現在の板鼻公民館近くにあります。この本陣の書院に孝明天皇の皇妹和宮親子内親王が徳川家（14 代将軍徳川家茂）に輿入れの旅の疲れを休めた場所。京都方 1 万人、江戸方 1 万 5 千人、京都からの通し人足 4 千人の長さ 54km という長大な行列であったと言われています。行列が通り過ぎるのに 4 日を要した。	自性寺焼	群馬県唯一の県指定伝統陶芸品です。自性寺焼は安中市秋間地域で産出する良質陶土によって製作されております。金花文の気品に満ちた釉薬を代表として、種々オリジナル釉薬を研究。他に類を見ない魅力あふれた、ふるさと安中の陶器です。焼締め陶器は穴窯、登り窯により赤松薪凡そ 10 トンを用いて 7 昼夜焼き続けた天工と技の結晶です。
碓氷社本社事務所 1 棟・附 棟札 1 枚・来賓便所 1 棟･建築縮図 1 枚	群馬県指定重要文化財 ぐんま絹遺産 明治 11 年には群馬県初の組合製糸会社である碓氷社が創建された。現在の旧碓氷社本社事務所は明治 38 年に建てられた。外観は唐破風風のムクリの付いた屋根に縣魚を施すなど和風ですが、洋風の構造やガラスを用いるなど和洋折衷の建築様式です。 製糸の品種改良により生産者の利益を守ろうと地元の有志者が組合製糸を発足した。 見学は外観のみ	新島襄旧宅	安中市指定史跡 新島襄は安中藩士の長男として生まれ、キリスト教の伝道に努めた。21 歳で渡米しキリスト教徒となり、アメリカから帰国（明治 7 年）した襄が、両親姉妹と再会した家が残されている。帰国後、神戸から京都に向かい同志社大学を設立した。没後は、活動を伝える資料館となっている。 開館時間：午前 9 時から午後 5 時（冬期午後 4 時 30 分）月曜休館 入館料：無料
碓氷関所跡		便覧舎址・有田屋	安中市指定史跡

様式１

	中山道で松井田宿と坂本宿の間にあった関所です。江戸時代に東海道の箱根関所、中山道の福島関所とともに重要な関所とされた。1616 年に安中藩主井伊直勝が関長原に関所を設置したが、1622 年に横川に移転した。「入鉄砲と出女」を厳しく取り締まった。1869 年（明治 2 年）太政官布告により関所は廃止された。昭和 34 年現在の位置に復元された。 群馬県指定文化財 （昭和 30 年 1 月登録）		湯浅治郎は、1872 年（明治 5 年）私費を投じて和漢や西洋の古書や新刊書を購入し、約 3000 冊の本を揃えて図書館便覧舎を創設しました。便覧者は、無料で利用でき自由な閲覧が可能でした。これが民間人が創設した最初の図書館と言われています。その後、明治 20 年に火災で焼失し、現在はその存在を示す「碑」があるだけとなっています。
碓氷製糸株式会社	碓氷製糸株式会社は日本最大の製糸工場で全国で 2 社しかない製糸会社です。1916 年碓氷精練株式会社として創業、1941 年片倉碓氷精練株式会社と改名し副蚕糸および繭を原料とする短繊維の製造を始め、1959 年碓氷製糸農業協同組合が設立され、組合製糸としての事業が開始された。 2017 年に農業協同組合では繭の仕入れに制限があるため、株式会社へ移行した。群馬オリジナル蚕品種をはじめ、国内１２県で生産された繭を生糸に加工し、全国の生糸問屋や絹織物工房等に販売しています。 見学も可能ですが、休業日が季節により異なるので、要問合せ	旧安中藩郡奉行役宅 ・旧安中藩武家長屋	安中市指定重要文化財 郡奉行であった猪狩磯右衛門が幕末から明治初期にかけて実際に居住していた建物。郡奉行は領内の村方の警察権や裁判権を有した役職で、配下に代官を置き領内の農民の統治を担っていた。 武家長屋は、江戸時代末期に四軒長屋として建てられた。 平成 3 年度に復元された。 開館時間：午前 9 時から午後 5 時。（冬季午後 4 時 30 分） 月曜休館 料金：大人 210 円　高校生以下無料（安中市民は無料）

様式１

碓氷峠鉄道施設	国指定重要文化財 碓氷峠は、交通の要衝であると同時に最大の難所でした 1890 年（明治 23 年）に急傾斜（最大 66.7‰）も運行が可能なアプト式の採用が決定され、明治 24 年に着工し、明治 25 年 12 月に完成した。ドイツからアプト式蒸気機関車を輸入し明治 26 年 4 月に横川・軽井沢間の 11.2㎞が開通した。隧道 26 ヵ所、橋梁 18 ヵ所が造られ、全体の約 4 割を隧道が占めた。その後、隧道の煤煙や輸送量の増大に対応するために明治 45 年 5 月国有鉄道の幹線初の電化が行われました。アプト式鉄道は碓氷新線が開通した昭和 38 年に廃止され、約 70 年間の運行を終えました。平成 5 年に碓氷峠鉄道施設という名称で近代化遺産としては初めて国指定重要文化財となりました。
碓氷第三橋梁（めがね橋）	国指定重要文化財 碓氷線最大の構造物であり、国内最大級の煉瓦造アーチ橋です。径間約 18.29ｍの 4 連アーチからなり、「めがね橋」の愛称で親しまれています。イギリス人ボナールの設計で創建当時は煉瓦が 202 万８千個が使われました。四季を通じて背景の山々に映え、素晴らしい景観を誇っています。明治２５年(１８９２年)に完
中山道四宿場 （板鼻宿・安中宿・松井田宿・坂本宿）	中山道は、江戸日本橋から草津まで百二十九里、京都三条大橋までなら百三十五里二十四丁八間、約五百三十三キロ。上州から信州へと至る碓氷峠路は木曽路と並ぶ難所でした。行程は日本橋から三条大橋まで、一日平均六里半(二十四キロ)を歩くとして、約二十三日ほどかかる計算になります。 中山道は公益のために始まり、多くの旅人や物資が行き来しました。中山道は、六十九宿場ありますが、安中市には板鼻宿・安中宿・松井田宿・坂本宿の四宿場があります。 中山道 69 次（宿場）で１市に４宿場あるところは２市しかありません。 板鼻宿は、江戸から数えて 14 番目の宿場。川渡があり、増水で渡れないことが多く、宿泊を余儀なくされることが多く、旅籠数も多かった。長野県塩尻宿に次ぐ２番目の大きさの宿場であったという。 安中宿は、江戸から数えて 15 番目の宿場。宿内家数は 64 軒、うち本陣 1 軒、脇本陣 2 軒、旅籠 17 軒で宿内人口は 348 人であった。 松井田宿は、江戸から数えて 15 番目の宿場。宿内家数は 252 軒、うち本陣 2 軒、脇本陣 2 軒、旅籠 14 軒で宿内人口は 1,009 人であった。信州各

旧熊ノ平駅跡	成し、明治２７年の地震を受けて、橋台・橋脚の補強工事が行われました。 国指定重要文化財 明治２６年(１893 年)列車の行き違いのための停車場として開設され、明治 39 年(1906 年)に駅に昇格しました。昭和 12 年(1937 年)7 月、構内にあった小山を崩して変電所が新築されました。昭和 25 年(1950 年)6 月、大規模な土砂崩れによって 50 名が犠牲となり殉難碑が建てられました。駅に昇格してから約 60 年後の昭和 41 年(1966 年)、碓氷新線の複線化に伴い、熊ノ平駅は廃止されましたが変電所は平成 9 年(1997 年)9 月の廃線まで使用されました。			藩から集まる年貢米の中継地となっており、その半分が松井田の米商人によって換金され、残り半分は倉賀野から江戸に運ばれていた。そのため「米宿」と呼ばれ商業が大いに栄えた宿場であった。 坂本宿は、江戸から数えて 15 番目の宿場。宿内家数は 732 軒、うち本陣 2 軒、脇本陣 2 軒、旅籠 40 軒で宿内人口は 732 人であった。中山道有数の難所であった碓氷峠の東の入口にあたり、旅籠は最盛期には 40 軒となり、比較的大きな宿場であった。
碓氷峠鉄道文化むら	一般財団法人碓氷峠交流記念財団が運営する体験型鉄道テーマパーク。横川運転区跡地に建設された。1999 年（平成 11 年）4 月 18 日に開園。碓氷峠の歴史や資料、碓氷峠で活躍した鉄道車両、国鉄時代の貴重な車両などを展示・公開している。また、信越本線の廃線跡を利用して EF63 形電気機関車の体験運転が行われたり、園内や日帰り温泉施設「峠の湯」までトロッコ列車が運行されている。 開園時間：午前 9 時から午後 5 時（冬期 4 時 30 分）	赤穂四十七義士石像	安中市指定史跡 屏風を南へ向けて開いたような岩山(岩戸山)の岩窟の下に 49 基の石像が並んでいる。これらの石像は赤穂藩片岡源五右衛門高房の忠僕で安中市下秋間出身の元助が赤穂藩士による討入り後、赤穂義士を供養するため、浅野長矩夫妻及び四十七義士の石像を建立した。元助は故郷に帰った後、剃髪して道心となり、名を音外坊(のちに向西坊)と改め、石像を建立した後、諸国を放浪し外房和田浦花園(現在の南房総市)で入定した。忠僕元助供養会(安中市)と向西坊供養

	入園料：大人 700 円　小人 400 円（小学生未満無料		会(南房総市)では、昭和 38 年以来交互に代表者を送り供養祭を行っている。その縁で南房総市と安中市は友好都市提携を結んでいる。
峠の湯・くつろぎの郷・ふれあい広場	碓氷峠の森公園内にある交流館峠の湯は、裏妙義の山並みやアプトの道を見晴らしながら温泉を楽しめます。和風と洋風の大浴場と露天風呂があり、男女交代で楽しめます。 平成 25 年 7 月に火災にあいましたが、平成 27 年 12 月にリニューアルオープンしました。すぐ裏手には、遊歩道アプトの道が通り、トロッコ列車「シェルパくん」の折り返し駅（とうげのゆ駅）もあります。また、近くには、くつろぎの郷があり、ログハウスの大小 7 棟のコテージがあります。 峠の湯とくつろぎの郷の間にふれあい広場が完成し、子どもからお年寄りまで楽しめる憩いの場として利用されています。 営業時間：午前 10 時から午後 9 時まで（入館は 8 時 30 分まで） 休館日：第 2・4 火曜日 入館料：大人（中学生以上 700 円）小人 500 円	磯部温泉	磯部温泉は、誰もが知っている温泉記号の発祥地です。 1885 年(明治 18 年)信越本線磯部駅開業のころから温泉地として発展してきました。源泉は、天明 3 年(1783 年)の浅間山の大噴火の時に湧出量を増したといわれ、地元の人たちに胃腸の霊泉として珍重されていました。明治の初め、ドイツ人ベルツ博士によって欧州の名泉カルルスバードと同質の湯という折り紙が付けられ、胃腸病療養泉として広く知られるようになりました。平成 8 年（1996 年）には新源泉「恵みの湯」の掘削により、さらなる人気を博しています。現在 7 件の旅館が営業しています。 泉質は、ナトリウム塩化物強塩温泉。うちみ、冷え性、切り傷、やけどなどに効能があります。 磯部温泉街には、足湯もあり賑わっています。
霧積温泉	発見は 1200 年代であると言われています。犬が発見したとされ、古くは犬の湯と呼ばれた。明治時代初期には温泉旅	日帰り温泉「恵みの湯」	平成 13 年(2001 年)安中市が建設しました。新源泉「恵みの湯」を利用した大浴場、露天風呂、全身の新陳代謝を促す砂塩風呂、介護を必要とす

	館が季節営業を始め、軽井沢が別荘地として開かれる以前から別荘が建てられるなど、避暑地として知られるようになった。伊藤博文、勝海舟、尾崎行雄、西郷従道、西條八十、与謝野鉄幹・与謝野晶子夫妻、山口誓子ら多くの政治家や文化人らも訪れている。伊藤博文が明治憲法草案を起草した部屋は現在でも本館の一部として残されている。		る方専用の福祉浴室があります。砂塩風呂は、メキシコ原産の原塩を西オーストラリアの砂に混ぜて温めたもので、体の上にかぶせ、15 分から 20 分横になります。そのあとハーブ茶などを何杯も飲みます。汗がたくさん出て、体の老廃物が排出され汗がサラサラになっていくのがわかります。 開館時間：午前 10 時から午後 9 時まで 休館日：第 1・3 火曜日 利用料金：大人 600 円（3 時間） 小人 400 円　砂塩風呂 3100 円
安中城址	永禄 2 年(1559 年)安中越前守忠政によって築かれたと言われています。西上野に侵攻してきた武田信玄に備えるため、忠政は安中城を築いて嫡子安中忠成を置き、自身忠政は松井田城を改修してたてこもりました。永禄 7 年(1564 年)安中忠成は武田信玄に降伏し、父忠政はそれでも松井田城にたてこもって防戦しましたが力尽き城を明け渡しました。忠政は切腹を申し渡されたが、忠成は定住を許され、安中城主となりました。天正 3 年（1575 年）長篠の戦に従軍し討死して安中城は廃城となりました。 慶長 19 年(1614 年)井伊直明が安中三万石を手にして、安中城を建てなおしました。直	松井田城址	戦国時代の日本の城（山城）である。諏訪城・小屋城・霞ヶ城・堅田城ともいわれる。 松井田宿 北方の尾根にある山城で、城の北側には碓氷道・東山道が通り、南側には中山道が通る交通の要衝に位置する。南北 1㎞・東西 1.5㎞に広がる城で、東西に伸びた比高 130m の尾根を城郭化している。東端に浅間出丸、尾根東半分には安中郭、西半分には大道寺郭があり、「別城一郭」の複合城郭を成している。東の安中郭が安中氏時代のもので、大道寺郭は後北条氏時代に築城されたものである。 築城は、1560 年頃。1564 年に武田信玄に攻撃を受け落城し武田方のものになる。1575 年

	明は井伊直政の長男で彦根藩二代藩主となるはずであったが、病弱を理由に弟直孝が彦根城を継いだ。安中城は城といっても天守閣はなく、茅葺平屋建の御殿が本丸に建っていました。(現在の文化センターのあたりである。) 明治維新により城、御殿、蔵、門、土塀などが壊されてしまいました。

	安中忠成が長篠の戦で戦死し廃城となった。1582 年武田氏が滅亡すると北条の支配となり、大道寺政繁が城主となった。1589 年豊臣秀吉による小田原征伐のおり北国勢の総攻撃により大道寺政繁は降伏し、廃城となった。

■安中市を代表するイベント・お祭り

安政遠足（侍マラソン）	安政 2 年(1855 年)5 月、安中藩主板倉勝明が家臣の心身鍛錬のため、安中城門から碓氷峠熊野権現まで片道七里余約 29㎞)を「遠足」（とうあし）と称して往復させたのがはじまりです。その時の到着時刻、着順氏名が記録されており、組織的に記録を競う遠足（マラソン）はこれが初めてであったということから、安政遠足が日本におけるマラソン発祥といわれています。この古事の記録を基に昭和 50 年に復活させたのが安政遠足侍マラソンです。 毎年、5 月第 2 日曜日に開催され、思い思いの仮装で着飾ったランナー達が旧中山道を走る姿は見ごたえがあります

■安中市を代表する自然や花の名所

アイリスの丘（ジャーマンアイリス・ヘメロカリス・ダリア）	秋間梅林から磯部温泉に向かう途中の小高い丘にある。ジャーマンアイリスはアヤメ科の植物で、紫やピンク、黄色など色とりどりの花をつけることから「虹の花」とも呼ばれています。丘陵地を切り開いた約 15,000 ㎡の園内に約千種 11 万株もの花が咲き誇ります。園内では、切り花や鉢植えなども直売されています。見頃は 5 月上旬から 5 月末です。その他にも春の様々な花々が植栽されています。また、6 月下旬から 7 月中旬にかけてはヘメロカリス園として、秋にはダリア園として開園して、季節ごとにその時期の花々を楽しむことができます。

様式１

秋間梅林まつり	秋間梅林の開園期間（2 月中旬から 3 月下旬）に開催される。開花祭、芋煮会、餅つき大会、関連事業者参加のマルシェ、秋間梅林ウォーキングなどのイベントが開催される。 週末に実施されるライトアップは高白梅が様々な色のライトで照らさられ幻想的な雰囲気が楽しめる。	秋間梅林（梅）	秋間川の上流の山間に広がる約 50 ヘクタールにわたって約 35,000 本の紅白梅が植栽されています。その規模は関東一といわれています。大正の初め、漬梅用として植えられたのが始まりです。戦時中は旧日本陸軍高崎 15 連隊へ隊員の塩分補給のため出荷していました。昭和 36 年に観光梅園として開園しました。開花時期は梅林一帯が甘い香りに包まれ、赤と白のコントラストで彩られます。
磯部温泉まつり	磯部温泉まつりは半世紀以上も続く伝統的なお祭りです。磯部温泉主催により磯部温泉街を会場に毎年 8 月 14 日・15 日・16 日の 3 日間にわたり開催されている。15 日に実施される花火大会は多くの見物客で賑わう。16 日は灯籠流し、仕掛け花火が行われる。	碓氷湖	碓氷川と中尾川合流点を昭和 33 年にせき止めて建設された人造湖。一周 1.2㎞の遊歩道が特徴的な橋とともに整備され、湖や周辺の山々を眺めながらの散策できる。春の新緑、秋の紅葉も湖とのコントラストも奇麗な場所で多くの人出で賑わう。。
碓氷峠ほたるの里まつり	碓氷峠の麓の坂本地区の沢沿いにホタルが群生し、6 月末から 7 月中旬にかけて、多くのホタルが飛び交う。地域関係者、住民参加の手づくりのお祭りが楽しめる。19 時～飛び始め、見頃は 6/下から 7/上（20 時～21 時頃）	ろうばいの郷 ろうばい祭り	ろうばいの花が見頃の 1 月上旬にろうばいの郷で開催される。ろうばいの枝や甘酒の無料配布やアトラクションが行われる。全国有数の本数を誇り、ニュースなどでも毎年取り上げられるろうばいの名所。

	咲前神社の太々神楽	鷺宮の太々神楽は、咲前神社の春祭りに奉納されてきた神楽で、第２次世界大戦で一時中断し、昭和３０年代に咲前神社の氏子を中心に保存会を結成して復活の努力が続けられ、その後今日まで続いている。また、昭和２９年３月２６日には、市の重要無形文化財に指定された。		妙義山	国指定名勝。九州の耶馬溪、四国の寒霞渓と並び日本三大奇勝のひとつ。奇岩怪石が造り出す山容は自然の芸術。四季の景観が見事で日本近代登山発祥の地白雲山・金洞山・金鶏山の総称であり、表妙義山・裏妙義山に分けられる。妙義山系最高峰は谷急山。
	安中市商工祭り	安中市商工会主催、安中市、安中市観光機構後援で。あんなか祭りと同日に開催される。商工会員事業者を中心に多くの団体が出店し、抽選化も開催され多くの人出で賑わう。2 市 1 町観光連携協議会ブースも設置される。		群馬フラワーハイランド	1959 年（昭和 34 年）にオープンした。市の北西部、西上秋間地区にあります。広さは約 50,000 ㎡の大自然のなか寒紅梅、ロウバイ、水仙、紅梅、白梅、桃、桜、枝垂れ桜、各種ツツジ、アジサイ、サツキなど 1 月から 5 月末まで数多くの花々が咲き乱れ、訪れる人を楽しませてくれます。
	あんなか祭り	安中青年会議所・安中市主催のお祭り。毎年 10 月に開催されます。市役所駐車場、市役所前通りが会場となり、マルシェが展開され大勢の人出で賑わいます。安中地区の山車の運行が行われます。花火も打ち上げられる。		後閑城址公園（桜）	戦国時代に西上州の要城として存在した後閑城をもとに堀切、郭、虎口門、櫓台など当時の形状を生かした広場が整備されている。それぞれの広場は遊歩道で結ばれ、草花や樹木のなかを四季折々の移り変わりが楽しめる。特に春、奇勝妙義山と浅間山を借景に本丸跡に植栽された桜が満開になる様は一見の価値がある。
	廃線ウォーク	1997 年 9 月 30 日に廃線となった、信越本線の横川-軽井沢間の廃線跡を歩くウォーキン		麻苧の滝	水流が麻のすだれのように見えることから名付けられました。高さ 40m から碓氷川の支流である横川の水が

	グイベント（体験プログラム）です。立入禁止の信越本線の廃線跡をこの廃線ウォーク時のみ立入ることができる。2019 年 10 月から開催し、2024 年 6 月末現在延べ 7500 人以上が参加している人気の体験プログラムです。コースは、11.2ｋｍの下り線コースや約 8.5ｋｍの上り線コースがあります。安中市観光機構が主催の廃線ウォーク以外に、旅行会社等のツアー企画や学校の研修、修学旅行にも取り上げられ、新たな分野にも注目される体験プログラムとなっています。 参加料：大人 8200 円 小人 4200 円		岩盤を豪快に流れ落ちます。紅葉・新緑・氷瀑とそれぞれの季節ごとに見応えがあり、断崖・祈願の滝の周囲は神秘的な雰囲気が漂い、山岳信仰の修験場としても知られています。
「MELODIC LIGHT WALK」（夜の碓氷峠廃線ウォーク）	碓氷峠と廃線を活用した新しい観光コンテンツ（体験プログラム）として、令和 6 年 4 月より「MELODIC LIGHT WALK」 を毎週末、土、日曜日に実施。夜の廃線の線路を歩きながら碓氷峠を走った専用電気機関車「EF63」や「ED42」をテーマとしたストーリー展開。廃線跡と沿線の森をプロジェクションマッピングとライトアップを演出し、コース内に設置された「メロディマーク」を探していくインタラクティブな体験プログラム。 参加料：大人 3,500 円、小人 1,500 円			

様式１

■安中市を代表する物産品		■安中市を代表するストーリーや偉人	
鮎料理 （磯部簗）	安中市、磯部温泉の夏の風物詩。昭和 39 年に安中市観光協会が中心となり、磯部簗の設置が実現した。昭和 39 年 7 月 3 日河川占用許可、7 月 10 日に営業許可、9 月 10 日に工事完成。 平成 2 年に台風の洪水により流失し、平成 3 年に再築された。安中市観光協会直営で営業されていたが、平成 26 年より株式会社並木へ業務委託されている。塩焼き、刺身、天ぷらなど豊富な新鮮な鮎料理が食べられます。 毎年、6 月から 9 月にかけて営業します。令和 6 年度は開業 60 周年を迎えました。	温泉記号発祥の地としての磯部温泉	昭和 33 年東横野村村長 佐藤太郎氏によって裁許絵図が発見された。裁許絵図は今の裁判の判決文に絵図をつけて判決を補足し理解を容易にしたものである。この文書の万治４年は西暦１６６１年である。この判決文は原野の境界を江戸に出て争ったときのものある。この判決文に添付された絵図の西上磯部塩の窪に２ヵ所温泉マークが記入されている。 この万治４年の絵地図に描かれた温泉記号が地図に描かれた最古のものであるということから、磯部温泉が温泉記号発祥の地とされている。この記号が当時温泉か、冷泉か、鉱泉かいずれを指すものか不明であるが、清水の湧くが如きものでなく噴騰の状況を表しているのは間違いない。この古文書の発見により３５０年以上前に温泉記号のあったことが立証される。また、万治４年（１６６１年）前に磯部鉱泉は湧出していたことも知れる。
磯部せんべい	磯部温泉の鉱泉水を使用して作った薄焼きせんべい。磯部温泉では磯部せんべいが名物菓子となっている。群馬県の	日本マラソン発祥の地	安政 2 年(1855 年)5 月、安中藩主板倉勝明が家臣の心身鍛錬のため、安中城門から碓氷峠熊野権現まで片道

	特産品で、磯部温泉街で手焼き販売している店もある。商品によっていろいろなものがあるが、小麦粉・砂糖を主原料に炭酸分を含む鉱泉水で練り上げ、薄く焼いたせんべいが代表的。磯部温泉の鉱泉水の炭酸含有泉は日本有数であり、飲んでも薬効があるとされる。これを含ませ練り焼き上げると、サクっとした歯応えに口の中では溶けるような軽い舌触りによって、独特の風味が楽しめる。		七里余(約 29㎞)を「遠足」（とうあし）と称して往復させたのがはじまり。その時の到着時刻、着順氏名が記録されており、組織的に記録を競う遠足（マラソン）はこれが初めてであったということから、安政遠足が日本におけるマラソン発祥といわれている。
梅干し	梅農家のみなさんは、梅林を手入れし、梅の実を出荷するほか、自家で梅加工品を作ったり、花の時期には観梅客をもてなす売店を出したりしています。手塩にかけた梅の実で丁寧に作った梅加工品は、農家自慢の逸品です。栽培した梅を一粒一粒収穫し、熟させてから塩だけでじっくりと仕込んだ梅干しが多く作られています。昔ながらの酸っぱい梅干しから甘い甘露梅まで多くの種類があります。	日本最初の民設図書館（便覧舎）	新島襄の教育活動を支援しキリスト教の教えを受けた湯浅治郎は、明治 5 年に民間人による日本初めての図書館「便覧舎」を私費で開設した。西洋式の建物で、和漢の古書、新刊書約 3,000 冊を備え、人々は無料で利用することができた。
		文教のまち　安中	板倉勝明からはじまる文化人の歴史から、安中市は「文教のまち」と言われ、県内では「安中教員と館林巡査」と言われるほど優秀な教員を排出する地として認知されていた歴史があった
絹製品	碓氷製糸株式会社は日本最大の全国で 2 社しかない製糸工場で、そこで紡いだ国産の絹の製品は希少である。 群馬オリジナル蚕品種をはじめ、国内で生産された繭を生	日本四大関所	碓氷関所は東海道の箱根関所・新居関所、中山道の福島関所と日本四大関所と一つとされています。

	糸に加工し、全国の生糸問屋や絹織物工房等に販売しています。		
醤油（有田屋）	有田屋は、天保三年（1832 年）、上州安中の地に創業いたしました。以来 190 余年もの間、昔ながらの天然醸造の製法にこだわった醤油を作り続けています。城下町安中でかつては安中藩の御用商人として有田屋は天保 3 年（1832 年）より永きに亘り、味噌、醤油の醸造をその生業としてきた。天然醸造のもろみを 2 年じっくり寝かせた最高級醤油「丸大豆仕込み天然醸造」、さらにそれに糀を加え 1 年以上発酵熟成させた「さいしこみ」を守り続けている。	新島　襄	天保 14 年（1843 年）、江戸の神田にあった上州安中藩江戸屋敷で生まれる。アメリカ人宣教師が訳した漢訳聖書に出会い「福音が自由に教えられている国に行くこと」を決意し、元治元年（1864 年）箱館港から米船ベルリン号で出国する。慶応 2 年（1866 年）12 月、アンドーヴァー神学校付属教会で洗礼を受ける。明治 8 年（1875 年）11 月、横浜に帰着。最初に故郷の上州安中に向かい、三週間滞在した。滞在中に、藩校・造士館と竜昌寺を会場にキリスト教を講演する。その集会で 30 人の求道者がでて、聖書研究会が開かれた。明治 11 年（1878 年）に 30 人が新島より洗礼を受け、安中教会(現、日本基督教団安中教会)を設立した。 明治 9 年(1876 年）1 月 3 日 山本覚馬の妹・八重と結婚する。キリスト教布教のため多忙な日々を送る。同志社大学設立運動中の明治 23 年(1890 年）1 月 23 日 10 か 条の遺言を託して死去する

峠の力餅	1200 年前に碓井貞光という武将がいて、源頼光と名乗っており、非常に力持ちでした。学問にも優れていた。この貞光の名にちなんで貞光の力餅とされた。江戸時代に入り中山道碓氷峠越えした人たちに対して、山中の刎石茶屋で販売されていた。明治 26 年に横川・軽井沢間の鉄路開通により、熊ノ平駅で販売された。昭和 38 年アプト式鉄道廃止に伴い、坂本で販売されるようになった。	板倉　勝明	文化 6 年（1809 年）11 月 11 日、安中藩主・板倉勝尚の長男として生まれた。文政 3 年（1820 年）家督を継いだ。文政 7 年（1824 年）従五位下・伊予守に叙官する。学問を好んで後藤松陰らと交遊し、藩内でも学問を奨励している。その一方で西洋軍制の導入や杉などの栽培奨励など、積極的な藩政改革を行なっている。学者藩主と称され、西征起行や東還紀行、遊中禅寺記など多くの著作を残している。教育のまち安中の基を築いた歴代藩主随一の名君。新島襄を見出し、安政遠足を実施するなど、まさに安中発展の基盤を築いた
峠の釜めし	荻野屋が製造・販売する駅弁である。益子焼の土釜に入れられているという点が特徴の駅弁で、「日本随一の人気駅弁」と評されたこともある。薄い醤油味の出汁による炊き込みご飯である。1958 年（昭和 33 年）2 月 1 日から販売が開始された。具は、鶏肉・ささがき牛蒡・椎茸・筍・ウズラの卵・グリーンピース・紅しょうが・栗・杏。釜飯とは別に、プラスチック容器入り	大手　拓次	明治２０年、磯部温泉の温泉旅館・蓬莱館の家に生まれる。生涯に書かれた詩作品は 2400 近くにのぼる。北原白秋門下の三羽ガラスと言われ、藍色の蠹、蛇の花嫁、訳詩集異国の香、遺稿集『詩日記と手紙』などの優れた作品を残した。拓次の著作権を継承した櫻井作次らの尽力により 1970 年から 1971 年にかけて全

	の香の物（キュウリ漬け・ごぼう漬け・小ナス漬け・小梅漬け・わさび漬け）が付く。
湯浅　治郎	有田屋湯浅家に生まれ、有田屋3代目当主となる。福澤諭吉の著書を読んで教育の重要性を認識した湯浅は、明治5年（1872年）に安中に私立図書館「便覧舎」を設置し、図書館事業の先駆となった。同郷の新島襄と親しく交わり、明治11年（1878年）彼を中心に安中教会が建設された時にキリスト教の洗礼を受けた。県政での廃娼運動の実施、国政でも活躍した。

	集（全5巻および別巻）が刊行された
柏木　義円	キリスト教思想家。 山川均に影響を与えた。新島襄に影響を受け同志社卒業。安中教会牧師も経験。足尾鉱毒事件、廃娼運動、未解放部落問題、朝鮮人虐殺問題など時代批判を幅広く行った。日露戦争以降は、一貫して非戦を主張したことで有名。
萩原　鐐太郎	組合製糸「碓氷座繰精糸社（のちの碓氷社）」を創立、養蚕・製糸業のために一生を捧げた。 碓氷社は官営富岡製糸場があるにも関わらず機械製糸を選ばず座繰製糸を選択したのは農民の利益を第一に考える鐐太郎の信念によるものだった。

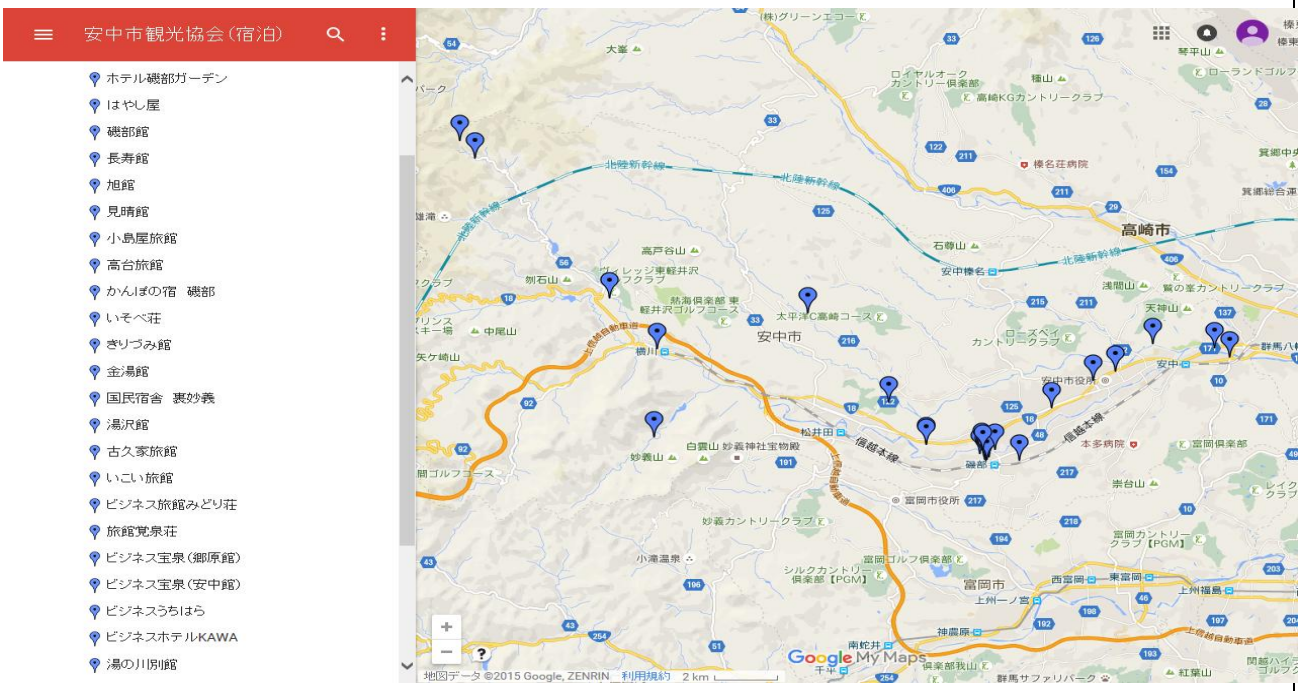
様式１

観光資源、地域資源を行政・関係団体と連携、協力してブラッシュアップしながら、
サステナブルツーリズムの観点から、大切に保全し次の時代に継承していくことが、
観光地域づくり法人として、大切な役割であると認識している。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

① 域内分布図

多くの宿泊施設は磯部温泉に集中。その他、ビジネスホテル、旅館は国道１８号線沿いに、市の東西に渉って広く分布している



② 宿泊施設名称及び収容人数

磯部温泉			**湯沢温泉**		
施　設　名	収容人数		施　設　名	収容人数	
ホテル磯部ガーデン	750	人	湯沢館	50	人
磯部館	120	人	合計収容人数	50	人
桜や	150	人	**霧積温泉**		
見晴館	40	人	施　設　名	収容人数	
旭館	50	人	霧積温泉金湯館	120	人
小島屋旅館	20	人	合計収容人数	120	人

合計収容人数	1130	人	温泉合計収容人数	1300	人

一般旅館・ビジネス			一般旅館・ビジネス		
施　設　名	収容人数		施　設　名	収容人数	
古久家旅館	30	人	くつろぎの郷コテージ	42	人
いこい旅館	35	人	民宿　中仙道	14	人
ビジネス旅館	50	人	湯の川別館	24	人
旅館　覚泉荘	38	人	東京屋旅館	18	人
ビジネスうちはら	18	人	旅館妙角	15	人
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾎﾃﾙ宝泉原市館	9	人	まついだ森の家	20	人
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾎﾃﾙ宝泉郷原館	14	人	旅邸　一人十色	10	人
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾎﾃﾙ宝泉安中館	18	人	ホテルルートイン安中	153	人
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾎﾃﾙＫＡＷＡ	40	人	一般旅館・ビジネス合計収容人数	548	人

総合計収容人数	**1848**	**人**

【利便性：区域までの交通、域内交通】

安中市は、中山道の４宿場や碓氷関所が置かれる交通の要衝であり、現在でも北陸新幹線の安中榛名駅に加えて、上信越自動車道の松井田妙義ＩＣ及び碓氷軽井沢ＩＣがあるなど全国的に見ても立地条件に恵まれた地域である。平成 27 年 3 月 14 日には北陸新幹線の金沢延伸、令和 6 年 3 月の敦賀延伸に伴い、関東圏や北陸圏からの観光客の誘致に、中長期的にも、大きく期待ができる状況になってきた。

しかしながら、富岡市と安中市を結ぶ二次交通は、両市の取り組みで信越本線磯部駅と横川駅（安中市）から富岡製糸場までのバス運行が 2 年間、期間運行として行われたが、１運行の平均乗車人数が平均１０人を充たない状況であり、政策効果が薄いこともあり、現在は運行していない。安中市と軽井沢町間は、信越本線の平成９年の横川駅、軽井沢駅間の廃止以来、横川駅～軽井沢駅までのバスが運行している。安中市内のバス路線は、安中市内の市役所や病院を結ぶ路線となっており、高校生の通学や高齢者の買い物などに活用されているが、観光客に活用される流れにはなっていない状況である。しかし、高速交通網の整備に伴う行動の広域化や旅行ニーズの多様化など、観光を取り巻く環境は刻々と変化しており、広域観光ＰＲの促進など時代に対応した観光振興策が求められている。特に、ＪＲ西日本が行った調査によると、関東圏に行きたい観光地は、東京に次いで軽井沢町であることがわかっており、富岡製糸場が世界遺産・国宝になったからと言っても、西日本の観光客からすれば、他の現状の世界遺産よりも、各遺産が点でバラバラになっていて面になっていないこと等で魅力的な滞在時間になっていないことがわかる。

また、現在行われている自治体毎のＰＲでは、観光客の視点に立った滞在型プランが形成されていない。そのため、トータルで紹介する観光ガイドの育成も進んでおらず、観光スポット毎のボランティアガイドが、次の観光地に誘導できていない状況である。

着地型観光の実現には、観光客の魅力を引きつける観光資源の演出と、それを伝えるための滞在時間を意識した観光ルートを造成し、観光スポットで地域観光産業である温泉旅館業、物産業、飲食業

等が個別かつ丁寧に、特産品メニューなどを開発し、ＰＲし、消費を促す事が必要である。魅力的な観光とは、観光客にとって非日常の空間演出が必要であり、そのためには観光客の観光資源の理解にあわせたトータル的なコーディネートが不可欠である。

北陸新幹線や、西日本からの効果的な旅行商品として考えるならば、日本を代表するリゾート地域である軽井沢に行ったあとに、温泉マーク発祥の地の磯部温泉に泊まり、世界遺産・国宝の富岡製糸場に行くという流れが、現実的なツアーの流れであろうと考えられる。

このように、当該地域への観光誘客はまだまだ伸びしろのある地域であると考えるので、今後とも２市１町観光連携・協働を重視しながら、関係機関及び相互の連携をより一層緊密にし、各地域に点在するさまざまな観光資源を有効に結び、ルート化することで回遊性を高め、「広域観光」の利点を推進することとしていくことが重要であると考える。

【外国人観光客への対応】

インバウンドについては、隣接の軽井沢町の外国人延べ宿泊者数は、205 千人泊（平成 30 年）であり、台湾人がその約 5 割を占める。台湾は主にファミリーの旅行者が多い傾向にある。なお、移動については、インバウンドの大半は JR のレールパスを利用していることが多いものの、香港からの旅行者は、東京もしくは軽井沢からレンタカーで移動するケースが多い。安中市や富岡市のインバウンドは、他都市と比べても少なく、インバウンド獲得への取組みが課題となっている。今までインバウンドの取り組みとしては、上記分析に基づき、軽井沢町に台湾人観光客が多く来ていることから、ターゲットを台湾にして、台湾エージェント、インフルエンサーを招聘して、安中市・富岡市・軽井沢町を巡るモニターツアーを実施した。また、台湾プロモーションとして、台湾旅行博への視察を行い、今後のインバウンドプロモーション方法を検討し、台湾 AGT にも訪問し、今後のインバウンド受注に繋げるための具体的なプロモーションを行った。合わせて、JNTO にも訪問し今後の観光連携強化を要望した。令和 3 年度は、観光庁の地域の観光の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業のなかで台湾をターゲットとし、インフルエンサーや旅行業者を迎えてのモニターツアーを実施した。また、オンライン FAM ツアー観光ルートを紹介する動画の作成、それをもとにした台湾現地旅行社 16 社とオンライン商談会などを行った。令和 4 年度は、前年度の商談会の経験を踏まえて、台湾の旅行社 8 社と個別に商談会を実施した。その効果もあって磯部温泉には台湾からの誘客に繋がった。また、台湾向けに定量調査を WEB アンケート方式で実施した。調査対象は、WEB アンケート調査会社の登録モニターで台湾在住 18～59 歳の男女、過去 5 年以内に訪日旅行経験有の方で、有効回答数 455 サンプル。このアンケート結果をもとに、台湾へのプロモーション策を関係者と検討した結果、令和 5 年度では、台湾向けに体験コンテンツを造成し販売、梅づくしギフトセットを開発、販売、情報発信として、WEB・SNS・雑誌掲載、メディア記事リリース等を実施した。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	・市内数カ所での対面アンケート調 査を自主事業として実施。 ・行政（観光課）からの数値を参考
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	・磯部温泉旅館組合へのヒアリング 調査

		・行政（観光課）からの数値を参考
来訪者満足度	観光客が実際に市内観光資源をどのように回遊しているかを測るため。また、観光客の満足度、再来訪の意向を調査し、リピーター獲得の施策へ反映させるため	・市内数カ所での対面アンケート調査を自主事業として実施 ・磯部温泉旅館組合へのヒアリング調査
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	・市内数カ所での対面アンケート調査を自主事業として実施
ＷＥＢサイトのアクセス状況	オンラインで予約可能な体験型プログラムの閲覧状況を調査するのと、関心度や今後の施策を効果的に把握するため。	・Google アナリティクスを活用して分析
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	・市内数カ所での対面アンケート調査を自主事業として実施

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

安中市では人口減少や高齢化が進んでおり、また業績優良企業も少なく就業者や事業所が減少している。こうした地域の課題に対し、観光地域づくり法人（ＤＭＯ）を中心として、行政と関係事業者、団体等、地域住民の方々と連携、協力して、既存の観光資源の活用と磨き上げを行い、また新たな観光資源の発掘を行いながら、持続可能な観光による地域づくりを行っている。こうした取り組みの中で新たな雇用の創出や担い手不足の解消、人材の発掘、交流人口の増加につなげることとしている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** ・東京から１００ｋｍ圏位置しており、東京 、首都圏から誘客し易い立地条件である。 ・めがね橋や、童謡もみじの原風景のアプト の道が碓氷峠にはある ・碓氷峠は鉄道の聖地である ・SL の運行が年間を通じてある	**弱み（Weaknesses）** ・インバウンド受入体制が未整備 ・全国に有名な物産品が少ない ・観光導線上に物産品が並んでいない ・隣接する観光地域（富岡製糸場、軽井沢町）への二次交通が充実していない ・観光ガイドの品質管理ができていない ・市民が市内の観光資源について知らず、郷土愛が醸成されていない ・JR 安中榛名駅前の新興住宅へ、東京から

	・日本近代登山発祥地である妙義山がある ・日本４大関所の一つ碓氷関所がある ・温泉記号の発祥の地である ・日本マラソン発祥の地である ・全国で２箇所しかない、現在も絹を生産し ている碓氷製糸株式会社がある ・中山道の宿場町が４つ形成されて発展して きた経緯があり、まち歩きや中山道歩きの 観光客が年間を通して多い ・高速自動車道のＩＣが２つ、新幹線駅が １つある ・地元の安中総合学園高等学校が、食文化の プロジェクトに参画するなど実業と連携 できる教育機関である ・日本人が最初に創立した教会である安中教 会がある ・一人あたりの所得金額が県内最大 ・国際リゾート都市、軽井沢町と隣接 ・世界遺産・国宝富岡製糸場を所有する富岡 市と隣接 ・駅弁日本一「峠の釜めし」	の移住者が一時期は多かったが、新幹線本 数の少なさや、将来的な生活の不便さから、近年は低調になっている。 ・まち歩きの観光客に対する消費促進策が 不足し、取り込めていない ・観光資源が点在しバラバラ ・観光資源保全活動に観光客未参画 ・インバウンド対応（案内板・多言語・ キャッシュレスサービス等）が未対応
外部環境	**機会**（Opportunity） ・かかあ天下が日本文化遺産に選定された ・市、観光機構、商工会、観光事業者が良い 連携体制がとれており、一体となって観光 振興プロジェクトを推し進めている ・隣接には世界遺産・国宝のある富岡市、840 万人の観光客が訪れる軽井沢町があり、そ れらと観光連携している	**脅威**（Threat） ・継続的な人口減 ・富岡製糸場に来場した観光客が、県内で競 合する温泉地域に引き寄せられ、観光客が 伸び悩み、磯部温泉への引き込みが弱い ・近隣の大きな商業都市高崎のベットタウン 化が進み、昼間人口が減っており、地域及 び家庭の問題解決能力が下がっている

	・体験プログラムの「廃線ウォーク」の取り 組みが評価され、総務省所管の第 25 回ふ るさとイベント大賞（令和２年度)、観光 庁・文化庁・スポーツ庁所管の文化ツーリ ズム大賞（令和 5 年度)、第２回「JR 東日本 地域共創アワード」最優秀賞（令和 6 年度）を受賞した。 ・碓氷峠鉄道遺産を世界遺産への登録に向け たプロジェクトが展開している。 ・道の駅建設計画が進められている。	・天然記念物の安中原市の杉並木の保存が課 題である ・人手不足の文化自然保全活動 ・風水害等による文化遺産の老朽化 ・観光資源周辺のゴミの廃棄 ・熊の出没、目撃が増加している

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由)。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
首都圏近郊に居住する 20 代から 30 代の女性観光客

〇選定の理由　〇取組方針
観光地域づくり法人(DMO)として取り組む以前は、宿泊を伴う観光客の多くが 50 代から 70 代のシニア層であったため第 1 ターゲット層としてきたが、観光地域づくり法人としての取り組み後は、アクティブに活動する東京在住の 20 代から 30 代の女性観光客を第 1 ターゲット層として取り込み、地域消費を上げる取り組みを行う。理由として、今までに商品造成した体験プログラム販売をネット中心に行ったことで、20 代～30 代の女性の体験者が増加した。これは、東京在住の女性に、安中市を中心とした 2 市 1 町（安中市・富岡市・軽井沢町）のオリジナルストーリーを、経験可能な魅力ある観光コースに体験プログラムを組み合わせ、彼女らの理解に併せた観光ルートの順番とストーリーを整えたことで需要が広がった。さらにモニターツアーを催行し、より商品の磨き上げを行い、モニターツアーの様子を追体験可能な魅力あるストーリーに仕立て上げた。その上で、各 AGT や DMO のサイトを通じた予約受入体制を地域で進めていき、旅行商品化を進めていく。よって、現在の客層の年齢を下げることにより総量の増加と波及効果の拡大を狙う。

具体的には、

① 様々な旅行テーマの中から、自己投資や希少体験といった若者が付加価値を感じられる旅行内容に磨き上げを行う
② 3 名以上のグループ旅行の需要を喚起するため、グループ用の体験プログラムプランを用意する

③ 現在の体験プログラム予約のうち、インターネット経由での予約が 90%を占めており、さらに予約の 70%が首都圏近郊に居住する方となっているため、首都圏から約 90 分でいけるというアクセスの良さをより PR してインターネット経由でのさらなる客数 UP を狙う
④ 旅行とは違う様々な業種で若年層に人気のあるホームページから旅行商品を誘引することなどにより、新規顧客を開拓する間口を広げる
⑤ 地域の人とふれあう経験を旅の要素の一つとして盛り込むこと。大学ゼミや NPO 法人等と連携する若年層の旅行（移動）ニーズに直接響くアプローチをする。
⑥ 地域内消費をあげるため体験プログラムを、春夏秋冬、朝昼晩で検討し、秋間梅林の梅を使用
した「あんなか梅スイーツ」の開発、販売や地元有田屋の醤油を活かしたスイーツ商品開発などを地域物産の開発と、観光線上での設置及び消費促進を地域一帯で図る
⑦ 体験プログラムの廃線ウォークの参加者が 20 代から 30 代が増加している。イベント中のよりプレミアム観の出る演出を加えるなどして磨き上げを行う。

〇第２ターゲット層
50 代から 70 代のシニア層（ＪＲ東日本 大人の休日倶楽部対象者）

〇選定の理由　　〇取組方針
現在の 2 市 1 町(安中市・富岡市・軽井沢町)の文化歴史（富岡製糸場、めがね橋、三笠ホテル等）や安中市にある中山道宿場町、碓氷峠鉄道遺産（廃線ウォーク含む）に関する観光資源は 50 代以上のシニア層が多く来訪している。交通手段として電車やバスでの利用が多いため、送客能力の高い東日本旅客鉄道株式会社や、クラブツーリズム、阪急交通社、はとバスなどの既存商品を定常的に造成している AGT と連携しつつ取り組みたい。
具体的には
① 安中市内の観光ボランティアガイドに協力してもらい、おもてなしガイドを強化し、安中市の歴史（中山道や鉄道遺産など）に関心が高いシニア層を誘客する。
② 2 市 1 町全体の誘客強化により、見るだけでない地域ストーリーとしての価値を高めていく
③ 約 50 ヘクタールの広大な丘陵に約 35,000 本の紅白梅が咲き誇る秋間梅林（群馬 3 大梅林）や、市内に 2 ヵ所あるろうばい、山吹の郷、アイリスの丘、群馬フラワーハイランドなど自然
を活かした観光スポットが多いため、花に興味がある方が多いシニア層に対し、AGT と連携したウォーキングなどのイベントを実施する
④ 碓氷峠廃線ウォークは、年間 1,500 人以上が参加する人気のある体験プログラムであるが、歩く距離が、8.5ｋｍから 11ｋｍと長いためシニア層でも歩くのが大変な方も多い。そのような方々の
ために廃線跡を EV レールカート体験で楽しんでいただけるよう、EV レールカートの開発を行う。

〇第３ターゲット層
軽井沢町や富岡市、東京に来ている台湾・香港を中心とした東南アジアの外国人観光客

様式１

〇選定の理由　　〇取組方針

インバウンドにおいては、軽井沢町の外国人延べ宿泊者数は、205 千人泊（平成 30 年）であり,、台湾・香港・中国が 7 割を占め、富岡市も同様、台湾・香港・中国を中心に富岡製糸場に延べ来訪者が 5 千人となっている。

2 市 1 町で取り組むインバウンド誘客として、既存で来訪している台湾人に対して、さらに地域消費をしてもらうのと同時に、台湾人のインフルエンサー誘致運動も行なっており、台湾にターゲットを絞って誘客を行う。

台湾は主にファミリー、香港は主に女性グループ・カップルの旅行者が多い傾向にある。なお、移動については、インバウンドの大半は JR のレールパスを利用していることが多いものの、香港からの旅行者は、東京もしくは軽井沢からレンタカーで移動するケースが多い。また市場としても拡大傾向にある。そこで、東京からのゴールデンルートからの引き込みを行うために、まず東京の若い女性に人気のある富岡製糸場～安中・磯部温泉～軽井沢までのコースを元に、外国人観光客への魅力ある観光コースを造成し誘客を行う。

具体的には

軽井沢や東京に訪れている外国人観光客の、満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。こうした取り組みとして、令和 4 年度は、台湾向けに定量調査を WEB アンケート方式で実施した。調査対象は、WEB アンケート調査会社の登録モニターで台湾在住 18～59 歳の男女、過去 5 年以内に訪日旅行経験有の方で、有効回答数 455 サンプルでした。令和 5 年度には、台湾からの旅行者 59 名にアンケートを実施した。これらのアンケート結果をもとに、台湾へのプロモーション策を関係者と検討していく。ある外国人観光有識者から、インバウンドにとって、Wifi 環境がない、案内板等に多言語標記がない、クレジットカードが使えない、公衆トイレが少ないことは、地獄にいるようなものだという指摘、指導を受けた。これを踏まえて、インバウンドの皆さんが安心して、楽しく、満足する観光のできる更なる環境整備をしていきたい。

〇第４ターゲット層

20 代、30 代のカップル層

〇選定の理由　　〇取組方針
　令和６年４月から開催（毎週土・日曜日）している「MELODIC LIGHT WALK」（廃線ナイトウォーク）（夜の廃線を歩く体験プログラム）は初年度で約 2700 人の参加者があった。参加者にアンケート調査を行った結果、20 代、30 代の参加者が約 70%を占め、そのほとんどがカップルであった。このイベントを何で知ったかという質問には、Instagram 等の SNS で知ったという方が 70%以上であった。年間通じての誘客が期待でき、開催日数も多く、受入キャパシティーも大きいことが強みである。
具体的には、
①著名なインフルエンサーを招聘し、廃線ナイトウォークの様子をインスタグラム等の SNS に掲載していただき、更なる誘客を図る。
②首都圏の旅行会社等に観光ツアーとして企画してもらえるようプロモーションを行う。
③春夏秋冬、季節に応じた演出を工夫し、リピーター誘客を行う
④夜のイベントなので周辺の宿泊施設との連携し、宿泊客増を図る。
⑤宿泊、土産の購入、飲食、日帰り入浴等の次の観光活動に繋がるイベントとする。
⑥屋外の夜のイベントなので安全対策を万全に行う。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	峠の文教都市あんなか
②コンセプトの考え方	〇「峠」 　碓氷峠という地理的条件があったために、街道が通り、関所が建ち、宿場まちが形成され、鉄道の歴史が刻まれ、そこに住まう私たちの生活が維持されてきたという歴史的背景（ストーリー）から、峠という単語が入りました。 〇「文教」 　安中市民なら誰もが知っている、「新島学園」「安政遠足」などは、元を辿ると学者大名としてその名を当世に知らしめた安中藩主「板倉勝明」の功績であるとの結論に達しました。 また、板倉勝明が見出した新島襄がキリスト教精神と日本の近代化を導く欧米の思想を安中に布教したことにより、新島襄の意思を次いだ湯浅治郎らによる安中教会、便覧舎の設立がありました。また、碓氷社の萩原音吉ら、製糸業の隆盛を導いた人物らも、そうした影響を受けていたことでしょう。それらが、かつて「安中教員と館林巡査」と言われた「文教の街」のイメージを安中に与えました。私たちは、そうした安中市の歴史を思い起こし、この安中市が「文教のまち」としていま再び輝くことを理想に掲げ、「文教」の言葉を入れました。 〇「都市」 　安中市の人口は減少傾向をたどっています。こうした人口減少に歯止めをかけ、「都市」という規模を今後も維持し、さらには人口増加にまでもっていくような、誰もが暮らしたくなる、そんな素敵な安中市を目指したいという理想から「都市」という言葉を入れました。

様式１

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、ププロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	地域の関連事業者（商工会、磯部温泉組合、磯部温泉旅館組合、安中市飲食店各組合、市内ガイド団体、市内農業関係者、市内教育機関、（一財）碓氷峠交流記念財団等）を集めてコミュニケーションの場を定期的に設けるとともに、関連事業者に対しての観光客受入のためのコンサルティング等を実施してきた。さらに、上記コミュニケーションの場で、安中市内及び2市1町（軽井沢町、富岡市、安中市）での滞在型体験プログラムの造成を、市民、関係事業者によるワークショップを開催し、多くの体験プログラムを造成した。また、観光庁の補助事業等の取り組みで関係事業者等と連携協力し、新たな観光コンテンツ（体験プログラムを含む）を開発し、国内外に販売した。
	地元の梅や醤油などの資源に着眼し、地元飲食店や物産店に安中でしか手に入らない名物作り地産地消を展開し、リピーター確保のために、梅農家や醤油醸造元、地元のNPOにも意見や参画を求め、体験プログラムの造成に繋げた。今後も関係事業と有効な連携関係を保ち事業継続していく。さらに、軽井沢町や富岡市と共に、大手AGTの意見を取り入れ、合同の商品企画ワークショップを開催し、観光客に一貫したストーリーで提供できる本地域ならではの体験プログラムも開発した。令和4年度は、安中市商工会・安中総合学園高校・新島学園高校・松井田高校・弁当製造販売６事業者と連携、協力して、市内3校の生徒がレシピを考案し事業者が6種類のあんなかロケ弁を制作し販売に繋げた。令和5年度は安中市商工会を中心として、安中の梅を使用して、市内14の菓子製造店舗と連携、協力して、「あんなか梅スイーツ」17品目を開発し販売した。

観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	群馬県などと連携し、地域内、菓子店及び飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに係るおもてなしのための、品質向上研修の実施や、認証制度を検討し、観光客満足度の調査によって管理及び改善を図っていく。さらに、地域の中で魅力ある人材の育成も併せて行う。 ■具体的な取り組み内容 ①地域に根ざした 7 店舗のスイーツ店に地域の特色と素材を活かして 物産商品開発を行ったお菓子（峠の贈り物）に対し、課題点を店舗 へフィードバック、改善を行うことで顧客満足度を上げる取り組み をしている。 ②地域おこし協力隊が地域で実施するイベントの情報発信をするのと同時に、安中市観光機構が開催しているイベントへ参加し、参加者とのコミュニケーションを行い、課題点を洗い出ししている。また、今まで情報発信できていなかった地域のグルメ情報を集約して安中市観光機構の HP「あんとりっぷ」へ常設コーナーを設け、情報を発信している。地域おこし協力隊が地域を代表するインフルエンサー的役割を担うことで、地域の魅力ある人材の育成に寄与している。 ③今後は当機構で地域おこし協力隊を招聘し、より地域に根差した観光地域づくり法人としての役割を果たしていく。令和 5 年度には、地域おこし協力隊員（OB）1 名を臨時社員として雇用した。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	市観光課から撮影支援、物産振興事務が移され、観光窓口の一元化が進んでいる。また、観光客が利用しやすい予約サイトや、域内の観光イベントや花や紅葉情報についてもＳＮＳでの情報発信を行っている。さらに軽井沢町と富岡市との広域連携により、東京の群馬県事務所「ぐんまちゃん家」にて、AGT、メディア関係者などへの効果的なプロモーションや、各地域での観光イベント相互出店を DMO として地域の情報を束ねつつ行ってきた。また、定期的に AGT 営業や、モニターツアーを開催してきた。また、関係事業者等に連携、協力いただいて、体験プログラム、観光施設、観光スポット、土産店、飲食店等を紹介する、あんとりっぷカード（体験プログラム 19 種・土産店 13 種・飲食店 12 種）（44 種類　各 1000 部）、中国語版、英語版各 500 部作成した。また、磯部温泉リトリートプランをカード化した。これらあんとりっぷカードをあんとりっぷボードに掲示

	し、市内 15 カ所に設置した。カード型情報ツールあんとりっぷカードは、季節ごとに観光コンテンツを入れ替わり提供することとし、QR コードを設置することで WEB 情報と連携、予約まで一貫して提供する仕組みを構築し、観光客の利便性を図るとともに、域内消費を拡大してきた。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（R9）年度
●旅行消費額（千円）	目標	10854000	11454000	6393000	7033000	7737000	7741000
		(未設定)	(30000)	(25000)	(28000)	(31000)	(35000)
	実績	5917440	5811787	5921662			
		(未設定)	(22224)	(22640)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	135	150	90	100	110	120
		(未設定)	(1.5)	(1.5)	(1.8)	(2.0)	(2.2)
	実績	79	81	86			
		(未設定)	(1.2)	(0.68)			
●来訪者満足度（%）	目標	5.35	5.40	5.45	5.50	5.55	5.65
		(未設定)	(5.00)	(5.25)	(5.45)	(5.55)	(5.55)
	実績	6.28	6.25	6.22			
		(未設定)	(5.10)	(5.20)			
●リピーター率（%）	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
		(未設定)	(5.0)	(8.0)	(10.0)	(12.0)	(12.0)
	実績	86.8	85.5	88.2			
		(未設定)	(―)	(1.1)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

本地域で観光誘客を効果的に進めるためには、本地域と一緒に観光客が立ち寄る傾向が強い軽井沢町・富岡市と連携して誘客することが重要であると考える。地域と連携した体験プログラムの造成により、体験によりこの地域に長い時間滞在してもらえるようにして、次の観光活動（土産の購入・昼食・宿泊など）に繋がるようにする。これにより消費額の向上、宿泊客者増につなげ、体験プログラムを地域住民、事業者が行うことにより、体験者との交流を通してより良いおもてなしをしていただき、またプログラムの磨き上げを行い、参加者の満足度、リピーター率の向上を図っていく。それらにより観光客の満足度が上がり、リピーターとしての再訪に繋がる。体験プログラムの「碓氷峠 廃線ウォーク」は、参加者が延べ 9,900 人を超え尖った体験プログラムとなっている。また、令和 6 年 4 月から開始した「MELODIC LIGHT WALK」（廃線ナイトウォーク）（夜の廃線を歩く体験プログラム）は初年度で約 2700 人の参加者があった。これらにより参加者の消費額増、宿泊者増につながっている。特に昼の廃線ウォークはリピーター率も高く、参加者満足度も高い。伸びしろのあるプログラムと考えるので、今後もより魅力あるプログラムとして磨き上げを行い、更なる参加者増につなげていく。廃線ナイトウォークも好調であり、夜のイベントであるので宿泊に繋がる可能性が高いので参加者の消費額増、宿泊者増に繋がることが期待できる。しかしながら、新型コロナウィルス禍以降、令和 5 年度で観光客数・宿泊者数が余り増加しなかったことから、旅行消費額、延べ宿泊者数の KPI は令和 5 年度数値の約 10%増とした。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

JR 横川駅前、秋間梅林、碓氷峠鉄道文化むら、碓氷第三橋梁、観光案内所等にて対面アンケート調査で項目の中に旅行消費額を設定し、そのアンケート結果と磯部温泉の宿泊施設などの宿泊客数と消費金額をヒアリング結果に基づいて算出した。また、安中市観光課が集計した観光統計の数値も参考にした。現在、販売している体験プログラムの予約数向上と安中市観光機構内での物販販売商品数を充実させて消費単価を年々向上させることを視野に設定した。

インバウンドに関する数値を令和 4 年度で策定した安中市観光振興プランの中で設定した。

新型コロナウィルス禍以降、令和 5 年度で観光客数・宿泊者数が余り増加しなかったことから、旅行消費額、延べ宿泊者数の KPI については令和 5 年度数値の約 10%増とした。

●延べ宿泊者数

旅行消費額同様、宿泊施設からそれぞれ宿泊客数を算出。国内宿泊数は現状維持を想定し目標を設定。安中市観光振興プランで設定している観光客数を視野に設定。

また、安中市観光課が集計した観光統計の数値も参考にした。

インバウンドに関する数値を令和 4 年度で策定した安中市観光振興プランの中で設定した。

新型コロナウィルス禍以降、令和 5 年度で観光客数・宿泊者数が余り増加しなかったことから、旅行消費額、延べ宿泊者数の KPI については令和 5 年度数値の約 10%増とした。

●来訪者満足度

主要観光スポットや宿泊施設等での対面アンケートや廃線ウォーク、廃線ナイトウォークなどの体験プログラム参加者アンケート結果をもとに集計を行って算出した。体験型プログラムを通してのおもてなしや、観光ボランティアガイドの増員でより満足度を向上していくことを視野に設定。地域内移動について、効果的な案内看板の不足や 2 次交通の整備などの明確な課題があるのでそれらを行政と連携、協力して早期に対応したい。

インバウンドに関する数値を令和 4 年度で策定した安中市観光振興プランの中で設定した。

●リピーター率

リピーター率 80%以上が理想の観光地のバロメーターと言われると有識者からの指摘を受けているので KPI を 80%に設定した。

来訪者満足度同様、安中市への来訪頻度を対面アンケートでヒアリング。アンケート結果をもとに、集計を行って算出した。年々参加が増えていく体験プログラムに参加した方に対し、他のプランを推薦することや体験プログラムの磨き上げを行い、魅力あるプログラムにしていくことで、リピーター数・リピーター率を向上していくことを視野に設定。

インバウンドに関する数値を令和 4 年度で策定した安中市観光振興プランの中で設定した。

様式１

（２）その他の目標

指標項目		2021（Ｒ３）年度	2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度
●ボランティアガイド人数（人）	目標	75	80	85	90	95	100
		(未設定)	(未設定)	(2)	(3)	(4)	(5)
	実績	72	77	80	85		
		(未設定)	(未設定)	(0)	(1)		
● DMO が管理する体験プログラムの数（プラン）	目標	190	200	210	215	220	225
		(未設定)	(未設定)	(5)	(7)	(10)	(12)
	実績	196	201	208	210		
		(未設定)	(未設定)	(6)	(7)		
●メディア掲載回数（回）	目標	65	65	70	70	75	75
		(未設定)	(未設定)	(未設定)	(3)	(4)	(5)
	実績	49	62	63	74		
		(未設定)	(未設定)	(2)	(1)		
	目標						
		(　)	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実績						
		(　)	(　)	(　)			
	目標						
		(　)	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実績						
		(　)	(　)	(　)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

本地域での DMO の推進、観光誘客の手段として、市内で活動する観光ボランティアガイド団体や市民の方の協力が大きく影響している。平成 28 年度より体験プログラム造成を住民、ボランティアガイド団体、事業者参加型ワークショップを定期的に開催し体験プログラム商品造成を進めてきた。DMO 関係事業の取り組みや体験プログラム商品を販売するための PR 促進のため、メディア掲載を推進しているため、その他の目標に設定した。

【設定にあたっての考え方】

●ボランティアガイド人数

市内で活動するボランティアガイドをはじめ、商品造成行う体験型プログラムのための新たなガイドを起用することで来訪満足度やリピーター率向上に寄与する。体験型プログラムを毎年度造成していくため、それに応じて新規のボランティアガイドも育成していくことを視野に設定。

●観光地域づくり法人が管理する体験プログラムの数

着地型商品として販売を行う商品ラインナップを増やすことで旅行消費額を向上させる。
体験プログラム参加により滞在時間が長くなることで次の観光活動として、昼食、土産品の購入、宿泊に繋がり、宿泊客増、観光消費額増につながる。
住民や市内を中心とした協力団体や協力民間企業が比例で伸びていくことを視野に設定。

●メディア掲載回数
群馬県内では知名度がまだ低いため、安中市が観光地として誘客をするための PR 活動が重要であるため、年間を通じてメディアと連携した宣伝を行うことを視野に設定。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	59,700,562（円）	【国からの補助】	24,799,990 円
		【群馬県からの補助金】	600,000 円
		【安中市からの補助金】	17,734,615 円
		【会費収入】	958,300 円
		【収益事業収入】	14,190,804 円
		【業務受託収入】	699,000 円
		【雑収入】	717,801 円
		【その他】	52 円
2023（Ｒ５）年度	55,878,913（円）	【国からの補助】	11,000,000 円
		【群馬県からの助成金】	700,000 円
		【安中市からの補助金】	18,237,147 円
		【会費収入】	962,000 円
		【収益事業収入】	22,997,049 円
		【業務受託収入】	600,000 円
		【雑収入】	998,215 円
		【その他】	384,502 円
2024（Ｒ６）年度	44,183,432（円）	【国からの補助】	0 円
		【群馬県からの助成金】	0 円
		【安中市からの補助金】	18,220,000 円
		【会費収入】	1,006,000 円
		【収益事業収入】	22,790,383 円
		【業務受託収入】	699,000 円
		【雑収入】	1,464,106 円

様式１

		【その他】	3,943 円
2025（Ｒ７） 年度	53,750,000（円）	【国からの補助】 【群馬県からの助成金】 【安中市からの補助金】 【会費収入】 【収益事業収入】 【業務受託収入】 【雑収入】 【その他】	0 円 0 円 16,400,000 円 1,100,000 円 34,200,000 円 800,000 円 1,200,000 円 50,000 円
2026（Ｒ８） 年度	54,700,000（円）	【国からの補助】 【群馬県からの助成金】 【安中市からの補助金】 【会費収入】 【収益事業収入】 【業務受託収入】 【雑収入】 【その他】	0 円 0 円 15,300,000 円 1,150,000 円 36,000,000 円 900,000 円 1,300,000 円 50,000 円
2027（Ｒ９） 年度	56,000,000（円）	【国からの補助】 【群馬県からの助成金】 【安中市からの補助金】 【会費収入】 【収益事業収入】 【業務受託収入】 【雑収入】 【その他】	0 円 0 円 14,200,000 円 1,250,000 円 38,000,000 円 1,100,000 円 1,400,000 円 50,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４） 年度	59,700,562（円）	【人件費】 【仕入費】 【一般管理費】 【商品開発費】 【イベント費】 【広告宣伝・広報費】 【什器備品等購入・修繕費】 【助成金・負担金】 【業務委託費】	17,056,103 円 659,629 円 5,165,757 円 616,880 円 832,964 円 929,784 円 524,660 円 1,395,700 円 30,918,538 円

様式１

		（ →　インバウンド対応・プロモーション・観光コンテンツ開発・マーケティング経費等含む） 【租税公課費】　866,450 円 【その他】　734,097 円
2023（Ｒ５） 年度	55,878,913（円）	【人件費】　17,917,280 円 【仕入費】　4,675,994 円 【一般管理費】　6,866,231 円 【商品開発費】　774,949 円 【イベント費】　357,240 円 【広告宣伝・広報費】　2,183,432 円 【什器備品等購入・修繕費】　1,515,651 円 【助成金・負担金】　1,425,470 円 【業務委託費】　17,223,647 円 （ →　インバウンド対応・プロモーション・観光コンテンツ開発・マーケティング経費等含む） 【租税公課費】　1,193,800 円 【その他】　1,745,219 円
2024（Ｒ６） 年度	43,812,952（円）	【人件費】　23,383,502 円 【仕入費】　3,076,217 円 【一般管理費】　5,529,329 円 【広告宣伝・広報費】　1,581,613 円 【什器備品等購入・修繕費】　1,777,513 円 【助成金・負担金】　1,407,700 円 【業務委託費】　5,332,797 円 【租税公課費】　1,263,961 円 【その他・金融機関手数料等】　460,320 円
2025（Ｒ７） 年度	46,000,000（円）	【人件費】　24,000,000 円 【仕入費】　3,500,000 円 【一般管理費】　5,700,000 円 【広告宣伝・広報費】　1,900,000 円 【什器備品等購入・修繕費】　1,500,000 円 【助成金・負担金】　1,400,000 円 【業務委託費】　6,000,000 円 【租税公課費】　1,500,000 円 【その他・金融機関手数料等】　500,000 円

2026（Ｒ８） 年度	48,000,000（円）	【人件費】 24,500,000 円 【仕入費】 3,800,000 円 【一般管理費】 5,900,000 円 【広告宣伝・広報費】 2,000,000 円 【什器備品等購入・修繕費】 1,800,000 円 【助成金・負担金】 1,400,000 円 【業務委託費】 6,500,000 円 【租税公課費】 1,600,000 円 【その他・金融機関手数料等】 500,000 円
2027（Ｒ９） 年度	49,000,000（円）	【人件費】 25,000,000 円 【仕入費】 4,000,000 円 【一般管理費】 6,000,000 円 【広告宣伝・広報費】 2,000,000 円 【什器備品等購入・修繕費】 1,800,000 円 【助成金・負担金】 1,400,000 円 【業務委託費】 6,500,000 円 【租税公課費】 1,700,000 円 【その他・金融機関手数料等】 600,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

一般社団法人安中市観光機構は、着地型旅行商品を扱う第 3 種旅行業免許を取得し、DMO 候補法人として発足し、平成 30 年に観光地域づくり法人として登録された。令和 3 年度までに物産開発を含む体験プログラムを春夏秋冬、朝昼晩をコンセプトに 196 プログラムを造成した。

その中で、信越本線の廃線跡を歩く、「碓氷峠 廃線ウォーク」が参加者延べ 9,900 人(令和 7 年 7 月末)を超す尖った体験プログラムとなり、安中市の体験プログラムの目玉商品として磨き上げを行い、AGT への営業活動や SNS でのプロモーションの効果として、旅行会社の企画ツアー造成や小、中、高校の研修、修学旅行で取り上げられるようになり、体験プログラムとしての幅が広がった。

碓氷峠廃線ウォークは、年間 1,500 人以上が参加する人気のある体験プログラムとして定着。今後、まだ伸びしろのあるプログラムであり、今後も安定した収益が期待できる。

令和 6 年 4 月から開催（毎週週末土日）している「MELODIC LIGHT WALK」（廃線ナイトウォーク）（夜の廃線を歩く体験プログラム）には初年度で約 2700 人の参加者があった。参加者にアンケート調査を行った結果、20 代、30 代の参加者が約 70%を占め、そのほとんどがカップルであった。このイベントを何で知ったかという質問には、Instagram 等の SNS で知ったという方が 70%以上であった。年間通じての誘客が期待でき、開催日数も多く、受入キャパシティーも大きいことが強みである。

体験プログラム参加者は、リピーター率も高く、参加者満足度も高いので、今後は、さらに魅力ある体験として磨き上げを行うとともに、観光庁の補助事業等にも積極的に取り組み、新たなコンテンツ開発や、域内の関係事業者等と連携協力して、体験参加者増、消費額増、宿泊者増に繋げていく。

新たなコンテンツ開発と更なる運営資金確保取り組みについては、鉄道廃線跡を歩くのが困難な高齢者、子どもに向けて、EV レールカートに乗車し廃線跡を楽しんでいただけるよう、EV レールカート乗車体験を観光コンテンツとしての商品化に向けて準備を進めている。ユニバーサルツーリズムとして、足の不自由な方にも、立ち入り禁止の廃線跡を観光してもらえるように取り組みたい。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

登録 DMO として、地域住民、関係団体、事業者等と連携、協力して観光地域づくりの取り組みを進めており、数々の体験プログラムを作成しています。碓氷峠の廃線跡を活用した「碓氷峠廃線ウォーク」はリピーターも多いヒット商品となっており、夜の時間帯を活用した「MELODIC LIGHT WALK」も、廃線活用のモデルケースになるとして波及することを願っています。
地域資源を活用し、観光による地域づくりを形成し、より地域が参画できる商品造成を期待します。

今後も、作成した体験プログラムの見直しや磨き上げを行いながら、課題を提議し、解決に向けて施策を打ち、地域の観光事業の支えとなるような地域のリーダー格となり、安中市における地域 DMO として、その役割を担っていただきたいと期待しております。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

重複しない

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	萩 原　 弘
担当部署名（役職）	一般社団法人安中市観光機構（事務局長）
郵便番号	379-0301
所在地	群馬県安中市松井田町横川 441-6
電話番号（直通）	027-329-6203
ＦＡＸ番号	027-329-6205

Ｅ－ｍａｉｌ	hagiwara@annaka-city.com

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	群馬県安中市
担当者氏名	永井　敦久
担当部署名（役職）	安中市みりょく創出部観光課 課長
郵便番号	379-0292
所在地	群馬県安中市松井田町新堀２４５
電話番号（直通）	027-393-1126
ＦＡＸ番号	027-386-4111
Ｅ－ｍａｉｌ	nagai@city.annaka.lg.jp

（登録）【地域DMO】 一般社団法人　安中市観光機構

様式２

記入日：　令和7年7月23日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】　群馬県安中市
【設立時期】 平成28年10月12日
【設立経緯】
　安中市の政策としてDMOが位置付けられ、その担い手として安中市観光協会を法人化し、DMO推進組織として、一般社団法人安中市観光機構が設立された。
【代表者】　武井　宏
【マーケティング責任者（CMO）】　上原　将太
【財務責任者（CFO）】　萩原　弘
【職員数】 ９人【正職員5人・非常勤4人（臨時社員4人）】
【主な収入】
　収益事業　22，790千円　　補助金　18，220千円（R6年度決算）
【総支出】
　事業費　44，183千円　（ R6年度決算）
【連携する主な事業者】
　安中市商工会・秋間梅林観光協会・東日本旅客鉄道株式会社・磯部温泉組合・碓氷峠交流記念財団・磯部温泉旅館組合・安中市ほか

KPI（実績・目標）

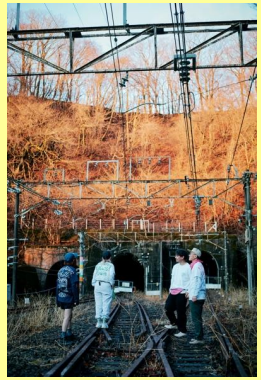
※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年	2023（R5）年	2024（R6）年	2025（R7）年	2026（R7）年	2026（R8）年
旅行消費額（千円）	目標	10854000（未設定）	11454000（未設定）	6393000（25000）	7033000（28000）	7737000（31000）	7741000（35000）
	実績	5917440（未設定）	5811787（22224）	5921662（22640）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	135（未設定）	150（1.5）	90（1.5）	100（1.8）	110（2.0）	120（2.2）
	実績	79（未設定）	81（1.2）	86（1.2）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	5.35（未設定）	5.40（5.0）	5.45（5.25）	5.50（5.45）	5.55（5.55）	5.55（5.55）
	実績	6.28（未設定）	6.25（5.1）	6.22（5.2）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	80.0（未設定）	80.0（5）	80.0（8）	80.0（10）	80.0（12）	80.0（12）
	実績	86.8（未設定）	85.5（-）	88.2（1.1）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
〇第1ターゲット層・・・首都圏近郊居住のカップル・ファミリー層
〇第2ターゲット層・・・シニア層（JR大人の休日倶楽部対象者）
〇第3ターゲット層・・・軽井沢町や富岡市、東京に来ている台湾・香港を、中心とした東南アジアの外国人観光客
〇第4ターゲット層・・・近年増加傾向にある中山道を歩く、欧米豪のAT層
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
観光客が利用しやすい予約サイトや、域内の観光イベントや花や紅葉情報についてもSNSでの情報発信を行っている。さらに軽井沢町と富岡市との広域連携により、首都圏大手AGTなどへの効果的なプロモーションや、各地域での観光イベント相互出店を観光地域づくり法人として地域の情報を束ねつつ行っている。また、商品造成した商品を紹介するAGT等向けモニターツアーを定期的に開催している。更に、域内宿泊施設や各観光資源の受付窓口で、地元関係者と造成した体験型プログラムの紹介と、口頭による直接説明により域内消費を拡大している。インフルエンサーを招聘した、情報発信も効果的であると考えており、定期的に行なっている。
【観光地域づくりのコンセプト】
　峠の文教都市あんなか

具体的な取組

【商品・物産開発事業】
・妙義山をテーマにオリジナルTシャツ作成
・あんなかロケ弁開発・販売
　（商工会、6事業者、高校生連携）
・中山道安中4宿場印の作成・販売
・信越本線廃線印の作成・販売
・あんなか梅スイーツ開発・販売
　（商工会、14事業者との連携事業）
・秋間梅林梅づくしセット開発・販売
【体験プログラム作成事業】
・碓氷峠廃線ウォークの磨き上げ
・廃線保全・保線体験プログラム作成
・「MELODIC LIGHT WALK」（廃線ナイトウォーク）の開発・実施
・碓氷峠タイムトラベルウォークの開発・実施

【インバウンド事業】
・台湾旅行社8社とオンライン商談会を実施
・台湾向けに体験コンテンツ（5プラン）を販売
・梅づくしギフトセット販売（台湾）
・観光コンテンツ商品販売ページの作成（台湾）
・メディア記事リリース（台湾）
【広域観光連携事業】
隣接する世界遺産・国宝を持つ富岡市と國際リゾート都市である軽井沢町と県境を跨いだ広域連携を締結し、連携した取り組みを実施している
【その他】
令和7年度は、地域住民や関係事業者等に対する観光地域づくりの更なる意識啓発・参画促進を図るためのワークショップを開催する予定である。
前年度実施した「持続可能な観光シンポジウム」も好評で、今年度も好事例発表などを内容として開催予定。